

竝に血管を襲はるゝを常とするが、急性腎臓炎の如く、悪寒、發熱なく、又局所に疼痛を感ずることは、殆んど無いと云つてもよい。

使用法 病勢が進んで、組織が全く傷んで了はなければ、本病もオキシヘーラーによつて大抵回復する。然し、本病の如き難治のものに對しては、飽まで根氣よく使用を繼續しなればならぬ。多年の痼疾を一二週間の中に驅逐するといふことは、いかに本器の靈效を以てしても不可能である。本病には第五法の全身療法を反覆すると共に、第六法を以て時々腎臓、胃腸等の器官に強力を以て、熱濕布を十分に絶えず施さねばならぬ。飲食物その他に對する注意は、前記急性腎臓炎と同じである。

三七 糖尿病及び尿崩症

糖尿病、尿崩症 は、その原因未だ不明であるが遺傳、麥酒過飲、澱粉過食、或は甘味坐食、喫煙、精神過勞、梅毒、頭部外傷、腦病、肝臓病等から起因するところの病氣で糖分の多量が尿中より排泄せられ、それが爲に身體は次第に衰弱するのを本病の特色とする。その徴候としては、飢餓、口渴、排尿過多、頭痛、不眠、皮膚癢痒、神經痛等を擧げるこ

とが出来来るであらう。糖尿病と尿崩症と異なる點は、糖尿病の方は尿量が増加すると共にその尿の中に葡萄糖を含有するに對し、尿崩症は唯尿量を増加する丈で、尿中に葡萄糖を含有せざるにある。

使用法(一) 本病には、先づ第一に酸化作用によつて、體內にある過量の糖分を減退せしむるに努めなければならぬ。その使用法は第五法に據り、中力の全身療法を行ふと共に一日に一回づつ、強力を以て胃腸、肝臓、時に腎臓、脊髓等の各部に、交るゝ毎日二三箇所に三十分位づつ、の熱濕布を行ふがよい。本病は肝臓を冒さるゝ場合が多いから殊に肝臓部に於ける局所療法は必要である。

(二) 糖尿病は、經過が至つて緩慢な性質のものであるから、従つて持久的の使用を要する。又本器を使用すると共によく攝生を守り、糖類、酒類、煙草等は勿論、澱粉性の食物は一切これを禁じ、酸味を帯びた果物も、成るべくこれを禁じ、肉食を主とし、又屢々冷水を以て身體を拭ひ、運動を怠らず、且つ皮膚腎臓及び腸の排泄に注意を拂はなければならぬのであるが、本器を使用してゐれば、攝生は幾分か緩かでもよい。

(三) 尿崩症の使用法も、略々糖尿病の使用法と同じく、本病は直接に死因となるべき

ことは稀であるが、身體を衰弱せしむる結果として、往々重い併發症を惹き起すことがあるから、よく注意して使用をゆるかせにしてはならない。

(四) 糖尿病も、尿崩症も、共に本器を辛抱強く使用すれば、必ず全快せしむることが出来る。本病に最も必要なるは酸素である。その酸素を吸収せしむるを主眼とする本器の療法は、本病の如きに對して、最も適切なものであることは言を俟たない。これを他の奏效甚だ緩慢なるに比して、驚くべき速效を奏することは、本器使用するに従ひ、病者の血圧が、漸次に下降すると共に、糖分の減少するのを見ても明瞭なことで、幾多の實驗例は、これを證據立て、餘りあるところである。

三八 膀胱加答兒、攝護腺炎及び遺尿

膀胱加答兒 は麻疾、感冒、尿道よりの汚物輸送、莖青、若くは底列並油の誤用、酸敗し易き酒類等の飲用が原因となつて起ると云ふ病氣である。が殊に麻疾によつて起る場合が最も多く、症状としては膀胱部の疼痛、尿意頻數等である。

使用法(一) 第七法に據り、兩導子を四五寸離して下腹部に接觸せしめ、その上より熱

濕布を行ふがよい。若し腎臓に炎症を起せる場合には、時々下腹部の導子を背部(腰の上の方)及び腰部に移して、膀胱の血液循環を司るところの血管運動神経を鼓舞せしめるため、熱濕布を施すがよい。又全身の活動を促す爲めに、中力を以て、時々二三時間づつ、全身療法を施すことも必要である。

(二) 副療法として、時々灌腸を行つて便通をよくし、茶、珈琲、酒類の如き刺激性飲食物は、これを嚴禁しなければならぬが、牛乳や清水を多量に飲用するのは、腎臓及び尿道を清浄する上に效があるから差支ないのである。

攝護腺炎 本病は陰莖根部に於ける攝護腺の炎症で、急性と慢性との二種がある。専ら中年の男子に多く、痲毒性尿道炎若くは膀胱加答兒に關聯して起り、急性は、發熱疼痛を伴ひ、從來治療困難と謂はれてゐる。又、一時よくなつても往々慢性に陥り易く、攝護腺肥大して、終に回復し難きものとなる。

使用法 膀胱加答兒に於ける場合と同じく、會陰部に他導子を接觸せしめて、第八法の大力使用を行ひ、又、その導子を時々脊髓の下端に移して、熱濕布を施す必要あり、又膀胱加答兒と同じく、全身療法を行ふ必要もある。然し、放尿が困難となり、尿道狭窄

に陥つたことが明白となつた時は、外科醫に就いて、手術を請はなければならぬからそこまでに至らぬやう、早く熱心に大膽に本器を使用するがよい。

遺尿 本病は、膀胱の中に溜つてゐる尿のために、利尿筋が刺戟されて尿が洩れるので多くは熟睡中殊に就眠後二時間位のとときに、上脛を夢みて排尿し、或は不知不識排出するのである。膀胱加答兒に於けると同じく、膀胱及び脊髄の下部に、第八法の大力を以て局所療法を施せばすぐ制遏する。然し全く跡を絶つには、生活力が盛になつて、抵抗力の強まるまで根氣よく使用せねばならぬ。

三九 膀胱結石

膀胱結石 本病は、膀胱内に結石を生ずるもので、その結石には次の三種がある。

尿酸鹽性——亞爾加里性尿中に發生し、痛風質と關聯するもの。

磷酸鹽性——磷酸鹽石灰より形成され、慢性の消化不良に伴ふこと多きもの。

磷酸鹽性——慢性膀胱炎に起因し、不斷的敗尿に伴ふもの。

以上は皆要するに、平素生活力の不活潑なるより、血液の酸化が自ら不完全なる結

果として、膀胱内に以上の如き堆積物を生ずるものであるから、平素新陳代謝を促進して生活力を盛ならしむれば、是等の病を發する虞れはないのである。

使用法 第七法或は第八法の何れかを選んで、これを施すがよい。斯して痛風質、消化不良、加答兒等を制遏して、病勢の進行を阻止しなければならぬ。若し大なる結石を生ずる時は、膀胱を切開して、それを取り出さなければならぬが、最初から本器を用ゐる時は、そこまで病の進行せぬ中に、阻止することが出来る。なほ、本病も亦再發の機會多ければ、一度阻止してもオキシヘーラーの使用は怠つてはならぬ。

四〇 花柳病

花柳病 には梅毒、軟性下疳及び淋病とがあつて、その病原菌は、それ／＼病に依つて異なるものであらうが、いづれも傳染病であることは勿論である。花柳病は、俗に亡國病と謂はれる位で、その結果の恐るべきに比して、病勢は比較的緩慢なる方であるから、勢ひ秘密主義を採るやうになり、つい慢性に陥らしめて、傳染を盛ならしめるのである。花柳病に對するオキシヘーラーの作用は、新陳代謝を盛ならしめるので、老朽の細胞に代つて

生氣潑洩たる新細胞を發生し、従つて、白血球の作用が昂つて、喰菌作用が盛になるから制遏し難き本病も、自然と驅除せられるのである。兎角、祕密を守りたき本病は、逸早く本器を使用したならば、他日慢性病となつて、子孫にまで禍を貽すやうなことがない。

梅毒 には先天性と後天性との二種がある。後天性のものは、その病源たる梅毒螺旋菌に接觸した場合に感染するもので、傳染後は一期二期三期と進み、甚だ驅除し難く且つ恐るべき結果を齎すものであることは、既に人の知るところである。

使用法 第一期に於て硬性下疳を發したる時は、その部に潤ひたるガーゼを覆ひ、その上に導子を當て熱濕布を施し、二期及び三期にありては、第八法の大力に據り、二導子を専ら胃と腸とに當て、その上より熱濕布を施し、約二時間を持続したる後は、引續き三時間程、中方の全身療法を行ひ、終つて四五時間休養し、再び前法を繰返し、反覆これをを行へば、病勢の進行せざる内に、これを制遏することができらるであらう。斯して病勢輕減した上は、第五法を採用し、病毒の全く痕跡を止めざる迄に使用を繼續する。三期に進みたるものには、専ら第六法に據り、熱心に使用するがよい。

軟性下疳 軟性下疳菌と云へる細菌に依つて起るもので、時には梅毒と混合傳染をなす

こともある。最初は、局部に小潰瘍を生じ、追々増大して、遂に噴火口狀を呈し、これを捨て置く時は、益々潰爛するのである。

使用法 梅毒と同様にし、尙男子にありては、局部結節の上に、潤ひたるガーゼを巻きその上に他導子を當て、熱濕布併用の大力使用を、一日二三回、一回二時間位づ、怠らず施せば容易に制遏することが出来る。

痲病 痲病菌が生殖器の粘膜炎に尿道の粘膜炎を冒すのである。急性中は盛に膿を分泌し放尿に際して尿道に堪へ難き疼痛を感じるが、追々慢性に進んで來ると、是等の症狀を自覺しなくなる代り、却て治療に困難を來たし、遂にはその病毒を子孫に傳へて、戰慄すべき多くの悲劇を生むのである。

使用法 梅毒と同様第八法を行ひ、男子の場合には、他導子を龜頭及びその附近に當て、熱濕布を施し、一日二回、二時間位づ、使用し、後は強力（せんしんれうほう）の全身療法を續行するがよい。本器を熱心に使用すれば身體の抵抗を強めて、喰菌作用を盛にし、洗滌その他の危険を冒さずして、自然と回復せしむることが出来るであらう。

四一 耳科病

難聴 難聴即ち耳の遠いには、種々の原因があるが、もしそれが、内耳組織及び歐氏管の加答兒に起因したものであるならば、その加答兒を癒さへすれば、本病も従つて癒えるであらう。外科の手術若くは灌注法等によつて、本症を阻止しやうとしても、決して十分の效を奏し得ないことは、人のよく知るところであるが、本器を用ゐて、その細胞機能を振起し、血液の循環さへ良好にすれば、容易に回復することが出来る。

第二十二圖 耳科用導子を用ゐるたのむる圖



子にて差支ない。普通導子の當て方は、耳の根元に著け、その上より熱濕布を施す。尙

て、その上より熱濕布を施し、強力にて一回二三十分づつ、毎日二回 程行ひ、又毎日一回 胃腸に局所療法を施すがよい。尙又中力の全身療法を行つて、全身の活力を強めなければならぬ。

耳科用導子を使用するには、先きに濕した脱脂綿を耳の孔に入れ置き、それを耳科用導子の突起部で押込めばよいのである。

中耳炎 耳の疾病の中で、最も多いのは中耳炎である。急性にあつては發熱時に四十度以上に昇り、患部に錐で刺すが如き激痛を訴へて、實に堪へ難きものであるが、慢性症は平素耳鳴、頭重、眩暈等を覺え、感冒、飲酒の時、又は、心身過勞の場合などには、一層疼痛を訴へる。本病は、單なる聽力の問題でなく、生命にも關するものとして、從來は一切開手術を施さねばならぬこと、考へられてゐたが、オキシヘーラーを使用し、その心臓機能を喚起し、血液循環を良好にすれば、その炎症は次第に去つて、手術等の苦痛もなく危険もなく、よく奏效を見ることは、幾多實驗例の示すところである。

使用法 一導子を足頸に、他導子を(耳科用導子を使用すれば更によし)その局所即ち耳に接觸して熱濕布を施す。その熱濕布は頭部の半面を覆ひ、願下に及ぶ丈の大きさのものでなければならぬが、その場合、又、脚部に熱濕布を施すか、温湯で温めるかして、強力を以て三十分乃至一時間使用する後、中力二三時間の全身療法を行ひ、痛みが緩和したならば二三時間休養し、再び、前法を反覆するのである。かうして倦まずに

四一 眼 病

使用を續けたならば、自ら病を驅逐することは容易である。

眼病 には近視遠視、トラホーム、結膜炎、角膜炎、白内障、網膜炎、緑内障等難易輕重の差はあるが、その原因は専ら生活力の衰弱、榮養の不良乃至痲病梅毒等から來るのである。本病にオキシヘーラーを使用すれば、心臟の運動を強く正しくし、血液の循環を良好にして、生活力を旺盛ならしむる結果、よくその效を奏するであらう。曾ては治療困難と謂はれてゐた網膜炎、緑内障、トラホームの如きも、本器によつて回復したる實例は、幾多實驗例の示す通りである。

圖二十二第
圖るたゐ用を子導用科眼



使用法 本病には、患部の局所療法を施すと同時に、胃腸にも局所療法を行ひ、全體に榮養の回復を計らねばならぬ。即ち原器を強力とし、一導子を手頸又は足頸に、他導子はガーゼ十枚位を折り疊みて造りたる温濕布（熱濕布は華氏百三十度位温濕布

は百二十度位とす）を以て眼球を覆ふた上に接觸し（上圖の如く眼科用導子を用ゐれば應用に便なり）その上より又熱濕布を施す。但し使用時間は餘り永きに亙る時は、眼球に充血を來すことがあるから、十分乃至十五分間を程度として一日二三回行ふがよい局所療法が終つてから、全身療法を續けることは、血行を周到ならしめるに必要である尙時々、前額、顳類部、後頭部等に他導子を移し、特に胃腸には毎日一回、二時間位づゝ大力乃至強力を以て、熱濕布併用の局所療法を施す。この方法を熱心に繰返へせば輕症は數日にして、重症と雖も倦まず使用するに於ては、遂によくその效を奏するであらう。彼の近視の如き治療の方法なく、殆んど遺傳的と見られてゐるものでも、本器を使用して生活力を旺盛ならしむれば、少なくともその度を輕減することが出来る。

四三 鼻腔の疾病

鼻腔の疾病 には、肥厚性鼻炎、萎縮性鼻炎、鼻茸、蓄膿症等がある。鼻と腦とは密接の關係を有し、第一呼吸が困難を感じるやうになつて、口腔のみで行はれるやうになると必ず呼吸は淺く小くなり、酸素の缺乏を來して、常に頭痛がしたり、眩暈がしたり、或は

精神の發育を障碍したり、又、種々な疾病の誘因となる。然かも藥劑や、切開などを以て是等の疾病を癒さんとするは、實に世に知らるゝ如く、容易に全快し難きものであるがオキシヘーラーの効力は、何等の苦痛も危険もなく、よく是等の疾病をも根絶せしむることが出来る。これ、心臓の機能を盛にし、鼻腔の呼吸を容易ならしむる作用を有する本器は鼻腔一般の疾病に對し、必ず有効でなければならぬ筈である。

使用法 一導子を手頸或は足頸に著け、他導子を前額部に當て、大力使用を一時間程行

圖三十二第
鼻科用導子を用ゐるため



ひ、若し奏效緩慢なる時は、鼻科用導子（第二二三頁參照）を用ゐてこれを鼻梁の兩側に接觸し、その上より熱濕布を施し、局所強力使用法を一回約三十分間づゝ、一日二三回行ふ。その他は中力の全身療法を施すがよい。何も切開手術の如き無理を行はずとも、内部より呼吸が盛になつてくれば、本病は自と癒え去るのである。この方法を繰返して行へば、惡臭を帯びたる濃厚なる鼻汁を排泄す。排泄し終れば、鼻腔の呼吸は容易となり、從つて附帶症狀は消散して、精神の爽快を覺ゆるやうになるであ

らう。上圖は、鼻科用導子を使用したところのものである。

四四 口腔病

齲齒 主に口腔内殊に齒間に残つた食物が、分解酸敗して齒を腐蝕するもので、耐へ難き痛みを訴ふることは、多くの人の經驗するところである。

使用法 原器を強力乃至大力とし、一導子を手頸に他導子を痛みある齒を有する頰に當て、その上より熱濕布を施せば、忽ち局所の炎症を去り、神經を鎮靜して、漸次疼痛を忘れしむる。

齒齦炎 年中齒槽が膿んだやうに充血して居て、少しく固い物を食べると直に出血する病である。要するに齒齦の弱いところへ、病菌が附著して化膿するのである。

使用法 一導子を手頸に他導子を口腔用導子に著け代て（第二一二頁參照）口内に挿入し一回二三十分づゝ、數回使用し、その間全身療法を兼行へば、新陳代謝を盛にし、齒齦を固定せしめて、出血の患ひなからしむる。

齒槽膿漏 本病の原因は唾石血石の沈著、尿酸素質、鼻腔の加答兒、及び遺傳性等、學

者間に種々異説があるが、要するに眞の原因は未だ不明らしい。この病氣にかゝると齒齦が化膿して常に膿を漏し、全齒悉く撼ぎ出して、遂には全く脱落する誠に恐るべきものである。然も齒科醫學上未だ完全な療法を發見されてゐない。

然るにオキシヘーラーを使用すると、心臟の働きを強く正しくし、血液の循環を良好にして、全體的に榮養を増進せしめ、局所的に酸化作用を旺盛にするから、よく化膿菌を撲滅し、齒齦を固定せしめて、遂にこの恐るべき病因を驅除し得るは、格別困難ではない

●**使用法** 齒齦炎と同様にし、時々胃腸にも熱濕布併用の強力局所療法を施して榮養機能の回復を計り、且つ怠らず全身療法を行ふ。

●**口内炎** 各種の傳染病より起り、又心臟病 肺病 等の鬱血より、或は水銀等の中毒より起るが、最も多き原因は、飲酒喫煙の過量、齶齒義齒の刺戟等である。口内が赤く爛れて味覺を失ひ、惡臭を發し、動もすれば漫性に陥り易い。従來は、中々癒え難きものと看做されて居たが、オキシヘーラーを使用すれば、漸次是等の病源を除き去り、口内の炎症を去つて、顯著の效を奏することは、少しも疑ひなき事實である。

●**使用法** 齒齦炎と同様でよろしい。

四五 婦人病

●**婦人病** 近時社會状態が複雑となるにつれ、婦人と雖も必しも家庭の人としてのみは居られなくなり、その纖弱の身を以て、男子と同様の職務に服するものが次第に増加して來た。従つて、神經衰弱、憂鬱症、ヒステリー、貧血症、月經不順、子宮病等に悩む婦人が非常に多くなつた。殊に醫師の診療に對して、憚り勝なる婦人のためには、本器使用法の如き他人の手を藉らず、時と處とを嫌はず、又疾病の如何を問はず、その生活力を盛にして、自ら疾病を驅逐するものは、實に絶好無比の救済でなければならぬ。何を措いても本器を使用し、切開手術の如き不自然な業は、絶対に避けねばならぬ。

●**使用法(一)** 子宮及び卵巢の疼痛炎症に對しては、第七法の大力により、一導子を足頸に、他導子を下腹部及び脊髓の下部に交互に接觸して、その上より熱濕布を施すこと二時間、後は大力の全身療法を行ふこと二三時間にして、又前法を繰返しく行ふがよい

この際時々、微温の食鹽水にて子宮洗滌を行ふことを怠つてはならぬ。

(二) 月經疼痛、月經緩慢、月經停滯、月經過剩、月經不順等には第七法の大力を以て

一 導子を足頸に、他導子を脊髓の下部薦骨部に接觸して、その上より熱濕布を施すこと
 二 二時間にして、その後は二三時間の全身療法を行へば容易に制止することが出来る。
 (三) 子宮變位、白帶下、子宮内膜炎にも、前と同様の使用法でよいが、同時に、朝夕
 五六分間温湯を以て、坐浴(殊に臀部)を行ひ、また本器を使用しつゝ、横臥して按摩を
 受けるなどは、オキシヘーラー使用の効果をして、一層顯著ならしめる。
 (四) その他の婦人病に對しては、第五法の中力に、熱濕布併用の局所療法を二時間程
 行つた後、全身療法を繼續するがよい。しかし、妊娠四箇月後の婦人は、三時間以上を
 連續使用し、又は一週間に四五回以上の使用を超えてはならない。尙健康である人の
 成規の月經時には、本器を使用してはならぬ。然し、病氣に依る月經なれば最も熱心に
 使用するがよい。

四六 小兒病

●小兒病 生れてから三四歳になるまでの小兒の生命は、極めて脆く、動もすれば虎列刺
 コロフ、赤痢、感冒、腸加答兒、麻疹、肺炎、腦膜炎、血液病並にその他の流行病に冒

圖 四 十 二 第
圖の法療身全冒感の兒小



されて危険に陥るものである。世界を通じての統計に見ても、兒童の三分の一以上は小兒
 時代に死亡し、その死亡率は非常に高い。また種々の疾病も多くは、この小兒時代に於て

怪我、打身等の場合にも、夫々患部若くは手頸、足頸でもよいから何を措いても、まづオ
 キシヘーラーを以て、應急の手當を施し置き醫師をも聘んで病源のいづれにあるかを確め

罹つた病氣が原因ら
 い。故に小兒時代の健
 康には最も細心の注意
 を拂はなければならぬ
 若し、愛兒の身體上に
 頭痛、眩暈、嘔氣、發
 熱、惡寒、胃腸加答兒
 等の徴候が見えた時は
 勿論、顔色の悪い時も
 吃逆、咳嗽の出る時も

た上、更にその病源に應じて適當の本器使用法を施すがよい。本器の作用は、如何なる小兒に用ゐるも危害を與ふるが如きこと絶無にして、寧ろ大人に於けるよりも、速效の顯れ易いものであるから、發病當初に於て逸早く強力きやうりきやくの全身療法ぜんしんれうほう一時間内外も行ひ、若し速效の見えぬ時は足頸あしけいに熱濕布ねつしつぷを施すこと日に二三回も反覆はんぷくしたならば、大抵は大事に至らずして回復するであらう。

●**使用法** 小兒病に使用するには、その年齢に應じ、使用時間を加減かへん（第七六頁小兒嬰兒参照）して用ゐるの外、大人と同様の各種疾病に對する使用法を参照して行ふがよい。

四七 藥劑中毒

●**斯篤規尼混中毒** 若くは、嚙下した腐蝕性の藥劑中毒の場合、本器を使用するよりも先づ寸時も猶豫せず、醫師を聘して解毒劑を服用しなければならぬ。併し、モルヒネ中毒に對しては、本器は大效を奏する。この場合は二時間乃至五時間、若くは危險状態の過ぎ去るまで、大力の全身療法を施し、足頸の導子の上に熱濕布を施して、その發汗を促すがよい。さうすれば、必ず效を奏すること疑ひない。

四八 その他種々の疾病

さて、以上、箇々の疾病についての本器使用法を説いたが、それは、唯その一部に過ぎない。凡そいかなる疾病も何かの原因で生活力の調和を失つた結果によりて生ずるもので、常に呼吸作用、循環作用さへ正しく行はるれば、人體生理上の調節と、生活力の平衡とが保たれて、所謂内部の條件が外部の條件に、適應して行くのである。

●**實際、病の起ると云ふこと、進んでは死に至ると云ふ原因は、人の脈搏、呼吸、體温の三つの關係如何によつて、よく身體の強弱が知られる如く、萬一その調和に一歩の過があれば、遂には千里の差を來すやうになるのである。論より證據、眞の健康者で脈搏常に七十二、呼吸十八、體温三十七度と云ふやうに、完全に調節した數を持つて居れば、身體は常に燃るが如く、元氣旺盛であるから、恰も汪洋たる大河の流れの如く、少しの故障でその流勢を妨ぐるやうなことはないと同しく、何等生活上の違和がない筈である。**

●**生理上脈搏、呼吸、體温の三者は、何人の健否にも、最も重大なる關係を示す、唯一無二のものでなければならぬ。故に、この三者の調和を目的とするオキシヘーラーは、有**

ゆる疾病の驅逐と、健康の維持増進とに、卓效のあるばかりでなく、常にこれを愛用すれば、殆んど、疾病の苦痛を知らず、よく啖ひ、よく眠り、よく働き、よく樂み得るところの天壽を保ち得るのである。況んや、日常有り勝の、疾病の如きその種類を問はず、その難易に拘らず、直に本器を使用すれば、前章の脈搏圖、血壓の調節表に見るが如く、その心臓の運動を強く正しくして、容易にその違和を回復し得るは勿論、而も使用法簡便にして絶對に無害のものであるから、餘り疾病の名に重きを措かず、又その種類の如何に恐れず、如何なる場合に應用しても、實に遺憾がないのである。

以上、説き來つたところによつて、大體本器の何者たるを會得されたことと思ふが、尙人々に由つて異なる生理状態は、以上の方法のみ墨守することなく、漸次使用に熟練するに従ひ、各自自身の實驗を基として、應用自在に試みらるゝならば、より以上の有效を認めらるゝことは疑ひない。然し未だ實驗を積まれざる人々は、本器の絶對的の效力に對して疑ひを挟み、唯、本器にのみ病人を託することに、不安を感ぜられる向もあることと思ふが、さういふ人々は醫藥と併用せられても更に差支ない。何れ實驗を重ねて行くうちに本器の效力が、いかに徹底したる理想的療法であるといふことは、自らわかつて來るに

違ひないのである。

尙ほ、近頃、愛用者の實驗に依れば、その病名の如何に拘らず、すべて慢性の諸疾患に對しては、強力若くは大力を以て、腹部に於ける局所療法を施す時は、著しい效驗があるといふことである。即ち一導子を胃に、他導子を腸に著けただけで、決して紐を結ぶに及ばないが、その上を成べく大きく廣くして、腹部全體を覆ふだけの且つ堪へられるだけ熱い熱濕布を施し、約一時間乃至二時間、強力若くは大力を以て使用する時は、盛に發汗を催し、呼吸循環の機能を旺盛ならしめ、疾病に對する抵抗力を強めて、回復の期を早くする。この場合、逆上のおそれある人は頭部を冷し、脚部が冷えるものは足を温める等の注意を缺がないで欲しい。尙ほ熱濕布を終つてから又夜間就寢中は、中力の全身療法は怠らず行ふがよい。

何故に、この腹部療法が、著しき效を奏するやといふに、人間の血液は、各體量の十三分の一を有し、容積で云へば普通二升五合ほどあるのであるが、その内四分の二は腹部に入り、他の四分の一は筋肉に行き互り、他の四分の一は、胸、皮膚或は内臓に分布せられてゐるので、即ち、血液は腹部に於て最も多量に存在する。その最も多量の血液を有する

腹部に、本器を使用する時は、血液の循環を平等にし且つ活潑にするに於て、最も効果あり、従つて、使用上最も有益であるといふことになるのである。然し、急性の疾患にありては、既に述べた通り、醫師の診断は勿論、各局所療法を採るべく、又診断上不明の疾病に對しては、次に説くところの局所器官療法を最も神速に適切に施すがよい。

オキシヘーラー奨励會の提供

本會は、オキシヘーラー使用上に關する質疑に答へ、來會者には無料にて實驗に供し、且つ本會の醫員より病症に對する使用法を教へる等、永久に本器使用者の便利を計る。

本會は、別に、愛用者の實驗成績を印刷し、オキシヘーラー治病實驗例として、広く公表してゐるから、各位の御寄稿を望む。

本器は效力を認め特約販賣を望まると、特志者には、或る小區域を限り御相談に應ず。

第四章 附 說

一 局所器官療法

その疾病の種類を問はず、最初に脾、肝、腎、胃、腸の如き重要な器官のうちの一つの機能に故障を生ずる時は、それと關聯して、他の器官もまた故障を生じ、相俟つて一つの疾病を醸すに至るものである。恰も、人體は千筋の絃より成る豎琴の如く、若し一つ調子が外れても全體に不調和を起す虞れがあり、一つの調子が整ふれば、全體の調和がとれるのである。如何に分業といふことが、社會の各方面に發達しても、身體のことばかりは分業的に律する譯に行くものではない。故に、各器官は各獨立して、別々に働いてゐるものではなく、互に相倚り相扶け、生命の維持といふ一つの目的に向つて働いてゐるのである。若し或る器官に損傷を受ける時は、他の諸器官もこれが影響を蒙ると共に苦痛を感じ又一器官の機能を回復する時は、他の諸器官も亦これに倣つて健全となるといふ風に各器官は極めて密接な關係を有するものである。一器官部に效のある使用法は、やがてその他の諸器官にも效のある使用法でなければならぬ。故に、若し一器官が充血炎症或は衰弱

を來せる場合には、次のやうな方法を以て使用を施すがよい。即ち、一日代りに、順々に強力きんりきよくの局所療法きょくしょりょうほう（一回一時間一日二回位）を各器官かくきくわんに行ふのである。なほ例を擧げて云へば、第一日には肝臓かんざうに局所療法を施す。すると、肝臓の機能が鼓舞こほされて、膽汁たんじゆの流通りゅうつうがよくなり、便通べんつうが整ととのひ従したがつて消化せうかが佳良かりやうになる。第二日には、脾臓ひざう（胸廓きょうかくの左側さそくなる下部かぶにあり）に局所療法を施す。脾臓は赤血球せきけつきゅうの發源泉はつげんせんで、多くの疾病しつぱい、殊ことに肋骨ろくごつのマラリヤ、腸窒扶斯ちやうしふすその他の熱性病ねつせいびやうによつて、障礙しやうがいを受け易やすい器官であるが、この使用によつて抵抗力を増進ぞうしんする。第三日には、腸ちやうに局所療法を施す。これによつて、血液けつ中の毒瓦斯どくがすを除のぞき、且つ腦脊髓なうせきずい及び神經系しんけいけいに著いちじしい効果を與あたへることが出来る。第四日に、胃いに局所療法を施す。これによつて、榮養機能えいようきかを鼓舞こほして、活力くわつりきの源泉げんせんを養ふことが出来る。第五日には、腎臓じんざうに局所療法を施す。これによつて、勞廢物らうはいぶつの排泄はいせつを全まからしめる。かういふ風に全器官ぜんきくわんに互たつて一と通り順次じゆんじに使用すれば、時々刻々ときどきに心臓しんざうの強く正しく働はたらき出すことがわかる。如何なる場合に於ても心臓は中央政府ちやうていせいふのやうなもので、他の悪いことも善よいことも、皆こゝへ訴うへることになるのである。尙症狀なほしやうじやうに應こたじて、特に一器官いくわんに繰返くりかへして多く施おほすことは、一層有效いちじやうくわうであらう。

この使用法は、診斷不明しんぜんふめいの場合、即ち病源びやうげんが果して何れの器官きくわんの故障こしやうにあるかゞ、まだわからぬ場合に用ゐて、効果を擧げ得るものであるが、勿論もちろん然らざる場合に於ても非常に價値かちある使用法である。各種かくしゆの熱性病ねつせいびやうに於ける如き、或は急性疾患きゅうせいしつじんの回復期くわいふきに於ける如き或は永ながき慢性病まんせいびやうに囚とらはれた人の如き、本使用法ほんしやうほうを以てすれば、必ず驚おどろくべき効果を奏するであらう。而して以上の使用法を施す場合、夜間就眠中やかんじゆみんちゆうは、弱じやくり力乃至中力りきよくないしちゆうりきよくを以て全身療法ぜんしんりやうほうを施すがよい。これは全身ぜんしんの抵抗ていかうを強めるにより、疾病しつぱいの進行しんかうをとどめて、衰弱すうじやくを防ぐ上に、非常ひじやうに效のあるものである。繰返すまでもなく本器ほんきの目的もくてきは、單に病を癒やすといふよりも、諸器諸臟しよきしよざうを振起しんきして、榮養えいようを回復くわいふくするのである。これ、一般いぱんの抵抗力ていかうりきよくを強めて自ら疾病しつぱいを驅逐くわくしやくし、尙進なほすすんで餘病よなやうの併發へいぱつを防ぐのであらう。

二 オキシヘーラーと難治症

オキシヘーラーは疾病しつぱいの輕かろきと重おもきと、急性きゅうせいなると慢性まんせいなるとを問はず、用ゐれば必ず奏效そうかうを見ることが出来る。いかなる難症なんしやうと雖も、持久ききう忍耐にんたい、繼續けいぞくしてこれが使用しやうを怠おこらざる時は必ず次第しだいに回復くわいふくの效かうを奏そうすることが出来るであらう。然し、いかにオキシヘーラー

萬能なりと雖も、全然根絶して了ふことの出来ない病氣がある。略々次に記す如きものであらう。

- (イ) 臓器實質の著しき崩壊を來せる疾病、例へば肝臓硬變、萎縮腎、肺結核の末期。
- (ロ) 心臟瓣膜病、動脈硬化、動脈瘤。
- (ハ) 癌腫、肉腫、腺腫、畸形腫等の腫瘍。
- (ニ) 強直を來せる慢性關節癱瘓質斯、畸形性關節炎。
- (ホ) 先天性畸形及び不具、ヘルニア。
- (ヘ) 喘息に併發せる惡性肺炎。
- (ト) 老衰病。
- (チ) 腦腫瘍及び腦水腫。

勿論、以上の諸症は、全然驅逐することが出来ないといふまでで、全くその效を奏し得ないといふのではない。病名は何んであつても、果してその實質が繕ふべからざるまでに崩壊されてゐるかどうかは、恐らく何人にも明白にわかるものではない。前章にも述べた如く、心臟がその弾力性さへ失はない限りは、如何なる重症に冒されても、決して悲觀す

るには當らない。本器を使用すれば少なくとも當面の病勢を防止し、その苦悶を軽減し或は除去することを得て遂に天壽を全ふすることが出来るのである。現に近頃本器愛用者の激增と共に、多くの新しい實驗に接するのであるが、從來世に難症不治と斷定せられてゐる肺病、動脈硬化、癌腫、肉腫、萎縮腎、糖尿病、心臟瓣膜病、老衰病等の回復を報じて來るものが、頻々として尠くないのである。これ、心臟の運動が、未だその調節力を失はなかつた實證であるから、世に難症不治と謂はれし一般疾病に對しても、決して斷念せず最後まで本器を使用して見るがよい。本器の使用によつて思はぬ命拾ひをした實例は、澤山にある。よくその效力を有するかを知ることが出来るであらう。

三 オキシヘーラーを賞用すべき機會

オキシヘーラーが、すべての疾病に對してよくその違和を去り健康を回復し得ることは以上述べ來つた通りであるが、殊に左に掲ぐる場合には、非常に效驗がある。聊か重複の嫌ひはあるが便宜の爲め、左にこれを列挙しやう。

◎ 瘦瘠しつゝある場合。(榮養不良)

- ◎感冒に罹り易い場合。(虚弱)
- ◎食慾不十分な場合。(消化不良)
- ◎諸所の關節及び筋肉の痛む場合。(樓麻質斯)
- ◎頭痛、眩暈を催す場合。
- ◎血液循環の不順なる場合。(心臟病その他)
- ◎背部並に肩胛部に疼痛を來せる場合。(筋痙攣神經痛)
- ◎消化不良の場合。(胃加答兒、胃弱)
- ◎黄疸を發した場合。
- ◎不眠或は悪夢に襲はれ易く、又は睡眠後爽快を覺えない場合。
- ◎疲勞及び衰弱を感ずる場合。
- ◎心臟の動悸を來す場合。(神經性心悸亢進)
- ◎腹痛、下痢、嘔吐、嘈雜等を催す場合。(胃加答兒)
- ◎咳嗽及び咯痰等のある場合。(呼吸器病)
- ◎手足の冷却し易い場合。(血行不調)

- ◎皮膚に癢痒及び疼痛を感ずる場合。(皮膚病)
 - ◎便秘。
 - ◎弱視、近視等一般に眼の悪き場合。
 - ◎腫物若くは發疹を生じたる場合。
 - ◎食後食物停滯、疼痛若くは嘔氣を催す場合。
 - ◎精神憂鬱し、意氣沮喪し易き場合。(神經衰弱)
 - ◎腰部に疼痛を感ずる場合。(腰痛)
 - ◎些少の運動に疲勞、衰弱、脱力等を感ずる場合。
 - ◎四肢、眼瞼等に痙攣を來す場合。
 - ◎尿意頻數及び尿の溷濁せる場合。(膀胱加答兒)
 - ◎婦人病。
 - ◎ヒステリー。
 - ◎陰萎。
- 以上の場合には、寸刻の猶豫もなくオキシヘーラーを使用せらるれば、直に心臟の運動

が喚び起されて、刻々に生活機能の調和されることは毫も疑ひ無い。その苦痛の重きものに對して、局所療法を要することは、前述使用細説及び圖解に説いてあるところを参照して、導子を接觸すべき適當の箇所を定め、使用法の示す所に従はれたい。尙器械の新しいものにあらざる限りは、その使用毎に修繕を怠らぬやう、心掛けることが大切である。

四 オキシヘーラーと活動者

既に説ける如く、オキシヘーラーは、常に病者に對する治療器たるに止まらず、健康者亦これを用ゐて、一層その健康を増進し得る療器である。故に、何等の疾病を有しない者健康體を以て日夜の活動に従事しつゝある者も、本器を用ゐて見らるゝがよい。これを用ゐれば活動後の疲勞を癒し、食慾を進め、便通を順調にし、睡眠を完全にする。これ要するにその生活力を振作調節して、抵抗力を強め健康を保障し、且つ、豫め疾病を防禦して老いを伸べ、壽を長くすることが出来るであらう。而して本器はその構造簡單にして、使用法もまた頗る簡便であるから、旅行中、活動中執務中に於ても、これを用ゐることが出来る。殊に本器は、呼吸を深くする作用を有する

故、常にこれを用ゐれば運動の不足を補ふことが出来る。學者、學生、執務者、居職者等日夜室内に在つて、十分に運動をなす機會を有たぬ人々は、絶えず本器を使用せらるゝがよい。本器を使用すれば、運動をなさずして運動をなす以上の効果を得られるのである。

又オキシヘーラーは、血液の酸素含量を豊富ならしめて、その酸化力を増進し新陳代謝を促進する作用を有するが故、本器は病後の回復、若くは外科的手術後に用ゐて最も効果がある。又、或る疾病の前驅症にこれを用ゐれば、直にこれを緩解し、ついで來るべき疾病を豫め防ぎ止めることが出来る。それから又、醫術の施しやうのない原因不明の疾病に對しては、本器療法よりよい療法は無い。斯る時、醫藥はその投藥を誤まつて、却て危険状態に陥るの怖れがあるが、本器の使用に於ては、決してさういふ心配はないのである。

近時、我々の生活が次第に複雑となり、不自然となるに従ひ、一般健康の状態が調はず頗る不良になつて、特に何病と名のついた疾病をもつて居ない迄も、顔面蒼白、元氣沮喪して、人體本來の活力を失つてゐる人が多い。否、皆然りであるとも云ひたい程であるこれ現代生活に脅かされ、神經が過敏になつて、心臓の運動が次第々々に彈力を失ふ結果に外ならない。何人も脈搏、呼吸、體温の生活表徴が、必ず古來の定數に反してゐるに

心附かず、調節は古來定數があるので、これに反するものは皆悉く健康不良の人である。然るに、多くの人はその調和と云ふことに心附かず、病氣即ち特別の苦痛不快がなければ健康なりと誤信してゐて、往々不慮の病難に苦しむものは、殆んど世間一般である。常に健康と思つてゐる人も、何等の躊躇なく一日も早く常に本器を愛用して、以て自然の健康をより一層増進し、大に邦家の爲に活動せられんことを冀はざるを得ないのである。

五 オキシヘーラーの特徴

有効無害 從來疾病の治療に使用せられたものは、皆或る制限と危険とを免れない。例へば藥劑の如き、疾病の種類によつて、それ／＼その用法分量を異にするにより、若しそれを誤まるときは、却て非常の害を來すことあり。又、甲の病氣の爲に用ゐる藥劑の爲め乙の病氣が誘起せらるゝやうな場合も無いでもない。電氣療法といふものの如きも、近來種々な名と形によつて現はれてゐるが、何れも治療の範圍極めて狭く、且つ使用法が面倒で、往々危険を伴ふことがある。然るに我がオキシヘーラーにありては、既に述べた如く如何なる場合にも、たゞ一様に生活力を調節するだけのもので、決して何等有害を伴

はない。その上、その奏效の根本的にして、且つ的確なることは、彼の萬一の僥倖を期待して用ゐるが如き、不自然的化學療法之比ではない。

奏效神速 各種疾病の發生當時に於て、その機を逸せず、オキシヘーラーを用ゐる時は必ずその疾病の進行を防ぎ、大事に至らずして回復せしめることが出来る。醫藥療法ならばその診断を誤まらぬ爲めに、或る程度の経過をみる必要があるが、本器療法に於てはその必要はない。又、藥物の如き副作用もなく、強ひて適藥を求めんとして試験的犠牲たる如きこともなく、病と見るや、即時にこれを使用して、即時にその奏效を見ることが出来るのが本器の著しき特徴である。殊に或る種の急性病などに於ては、本器のこの特徴に俟つより外には、これを救ふの途は無いであらう。

使用簡便 前にも屢々繰返したる如く、本器は、使用頗る簡便である。唯、原器の溫度を調節し、二導子を手足若くは局部に接觸すれば、あとは一切自然に任せておけばよいのである。而して又、本器は起居何れの場合にも使用し得るから、治療の爲めに特に時間を要しない。睡眠中でも、或は仕事をしながらでも、或は又、旅行中でも使用出来るのである。且つ形狀が携帯に便利なので、旅行中と雖も、これを携へ行くことが出来る。

入費不要 オキシヘーラーは購買價格以外、幾何の費用も要しない。一度これを求めて置けば、一年一回位新しい導線を取換へる外は、永久に萬能の治療器として役立つのである。本器の購入費必ずしも廉ならずとしても、屢々、醫師を聘し、投薬を請ふの費用に較ぶれば言ふに足りない。剩へ一箇の本器よく萬病を制遏して及ばざるなく、且つ不斷の活動を助けて人生の幸福を保證し得るものであるから、各戸各人必ずこれを備へなければならぬものである。

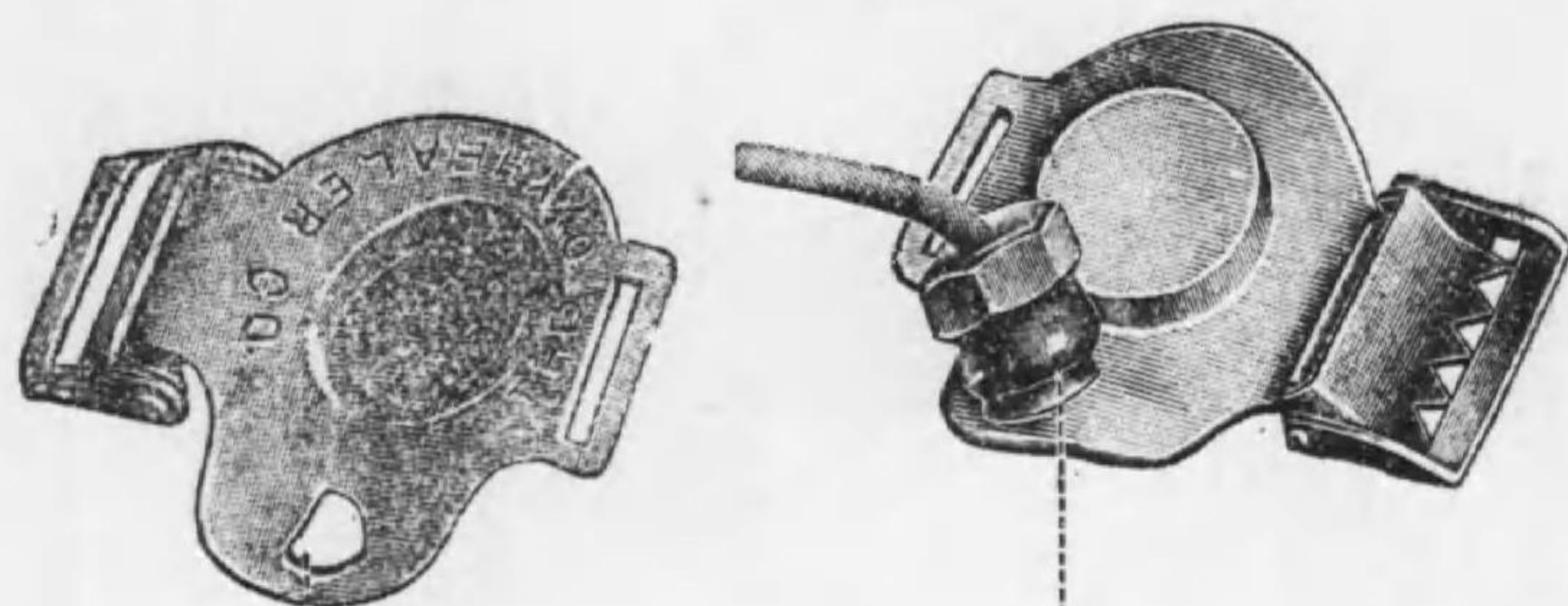
獨立自衛 オキシヘーラーは、我々の健康をして、確實に獨立自衛せしむるものであると云つてよい。前にも述べたる如く、人體はその自然の調和を失はない限り、健康は續くのである。人體は一箇の自然であるから、この自然が、自然の法則に従つてゐる限り、人體の健康は保たれるが、一度自然の法則に悖り、自然の調和を失ふや、忽ち不健康に陥り各種の疾病に冒さるゝに至るのである。本器は、人體の自然の調和を保つ作用をなし、人體の不自然状態に陥るや、直にもとの自然状態に復せしめる作用をなすものである。即ち本器は小宇宙なる人體に固有せる自然力を、この大宇宙に固有せる自然力によつて、喚起するもので、醫藥の如く人手を用ゐず、他物の力を藉らず、自己自身の中に存する力によ

つて、その天分を展びるだけ展ばして、社會の爲めに十二分の活動をせよと云ふのである。ラスキンの句に「人は死すべき時を知らずんば、如何に生活すべきかを知るを得ん」眞に自己の死すべきを知り、自らを衛りて迷はざるは、人生の悟りである。

有効期間 オキシヘーラーの大なる特徴として、又、そのいつまでも效力を減ずることなく、多少の修繕を施せば永久に使用に堪へ得るといふことを挙げなければならぬ。本器の有効期間は無限である。これ本器の包藏せる内容は、自然の結晶であるから、酸化若くは破壊せざる限りは永遠不滅であり、従つてその效力も永遠不滅である。故に、一箇を求むれば、生涯の伴侶となし傳家の寶物として、永遠に盡きることがない。

應用自在 既に説ける如く、本器は、隨時隨處にこれを使用することが出来る。これが使用に何の準備もいらず、何の手数もいらず、用る度い時には隨意に用ゐることが出来る。就業中、就眠中、旅行中、活動中、いかなる處、いかなる時に於ても、自由にこれを用ゐることが出来る。従つて、治療の爲に特に時間を割く必要がない。多事多忙の世には最も適當な治療器といはねばならない。又、一箇を備へつけてさへおけば、交る／＼幾人でも用ゐることが出来るといふのも本器の特徴である。各種の會社、工場、旅館、船舶、學校

圖 六 十 二 第

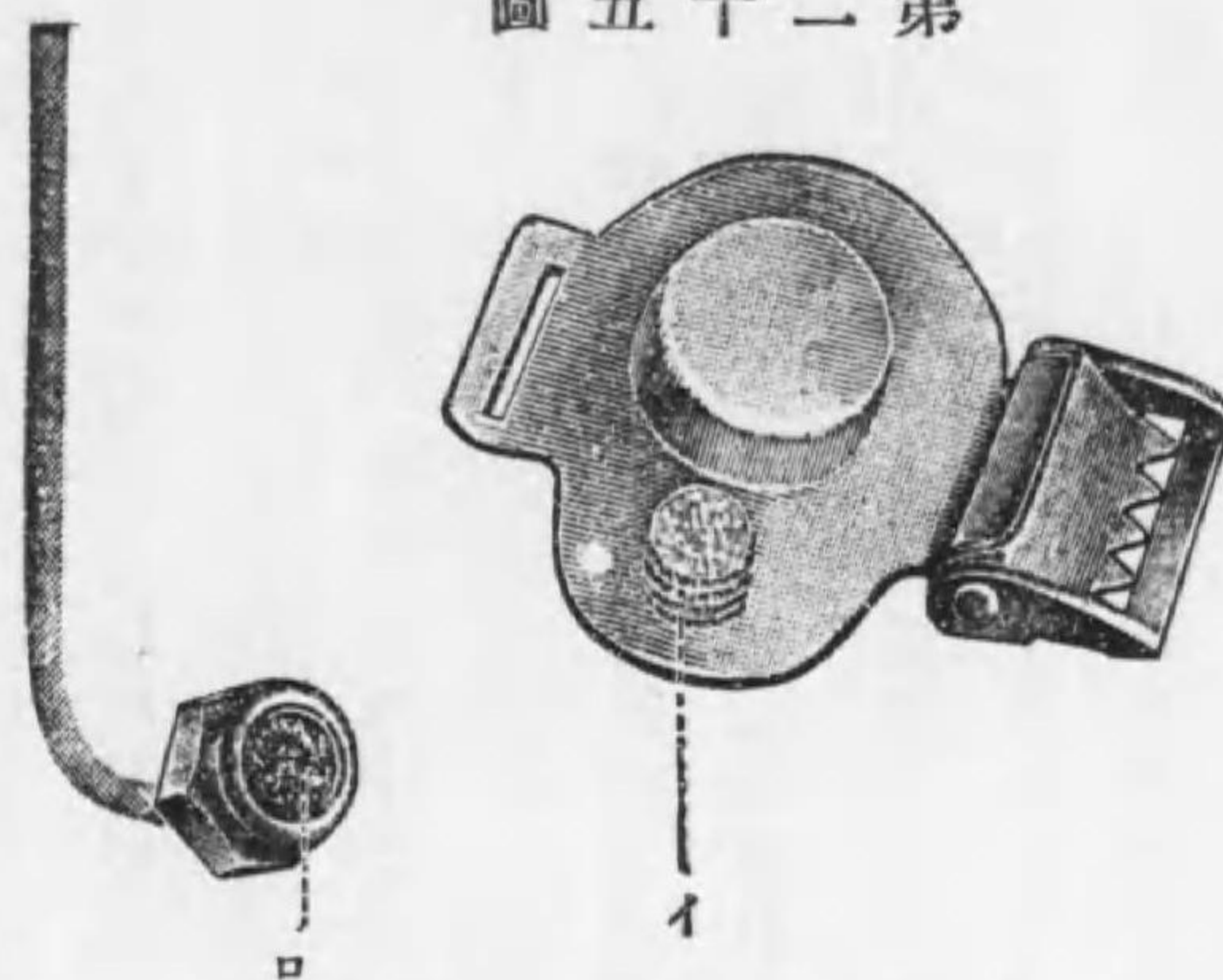


所るたれ破の本根の捻雄(ロ)

所るたみ歪の捻雄(イ)

二十五圖イ、ロ部には往々石灰やらの酸化物が附く
 として、是等の附著物は、本器の感應を遲鈍ならし
 め或は絶縁せしむる。殊に發熱あり浮腫ある人に使
 用した場合などには最も甚だしい。かの肋膜炎の水
 腫に使用し熱濕布を施すときは、恰も牛乳の流るゝ
 如く、僅か一回の使用にても感應を遲鈍ならしむる
 は愚か、絶縁せしめるやうになることさへあるから
 時々検査を行ひ、アンモニア水、又は磨粉を以てよ
 く磨き、それ等の附著物を除き去らなければならな
 い。その最も甚だしき時は刃物を以て削らねばなら
 ぬ程附著物の多いこともある。この附著物をいつま
 でも打ち捨て置く時は、雄捻と雌捻とが、恰もセメ
 ントを以て膠著したやうに動かなくなり、これを無
 理に取り離さうとすれば、雄捻の根元を破ることに

圖 五 十 二 第



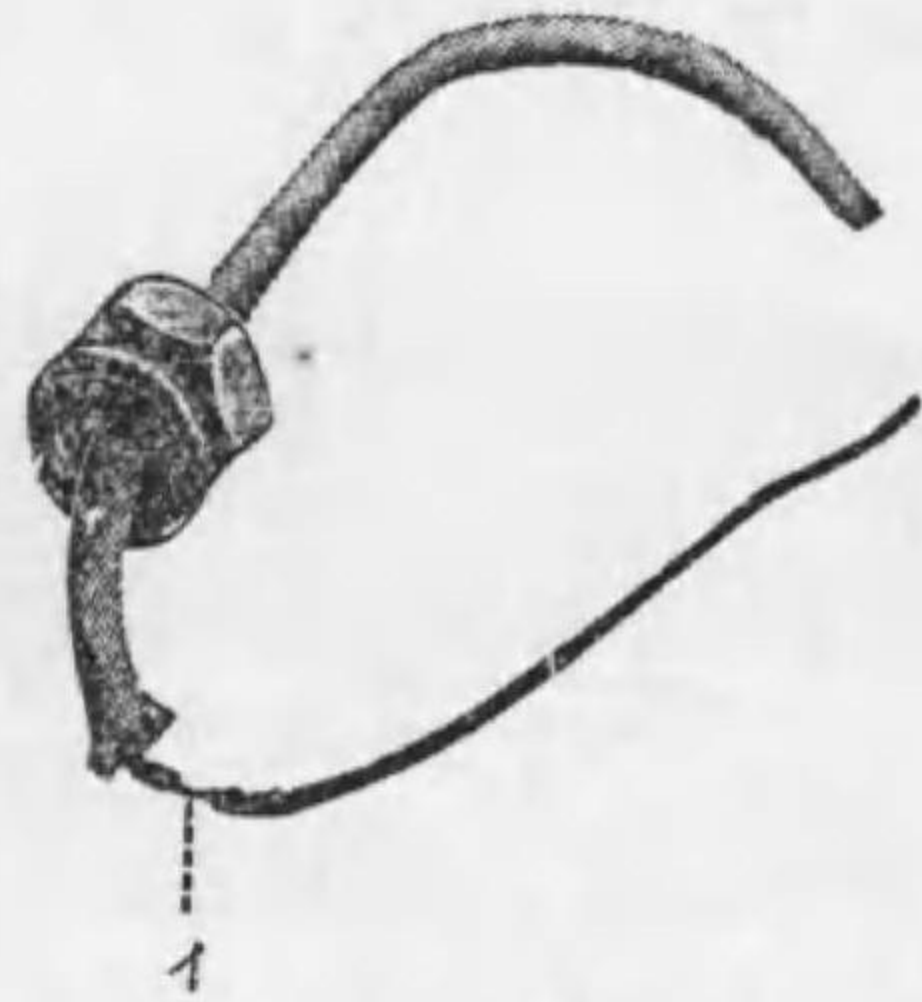
所るす著附の物化酸に共(ロ)(イ)

オキシヘーラーの原器は、その效力不減なると共に
 構造堅牢無比であつて決して破損の憂ひはないが導線
 及び導子等は使用すればする程、病の重ければ重い程
 腐蝕破損することを免かれなから、常に深く注意し
 て必ずその手入を怠つてはならない。兩導子は使用前
 後に必ずよく磨き、その酸化を防ぎ光澤の失せぬやう
 に注意しなければならぬ。且つ兩導子は常に皮膚の脂
 肪、排泄物等の爲に汚れ易く、甚しきは腐蝕すること
 があり、殊に、導線の尖端と導子雄捻との接觸點(第

寄宿舎等多數の人々の相集つて起居するところでは、是非、數箇を備へて常時の用に供し
 萬一の急に備へるがよい。又、僻陬の地、無人の境若くは悪疫流行地等を旅行する際には
 是非、本器を携へてさへ行けば無事安全であらう。

六 オキシヘーラー保存法

圖 八 十 二 第



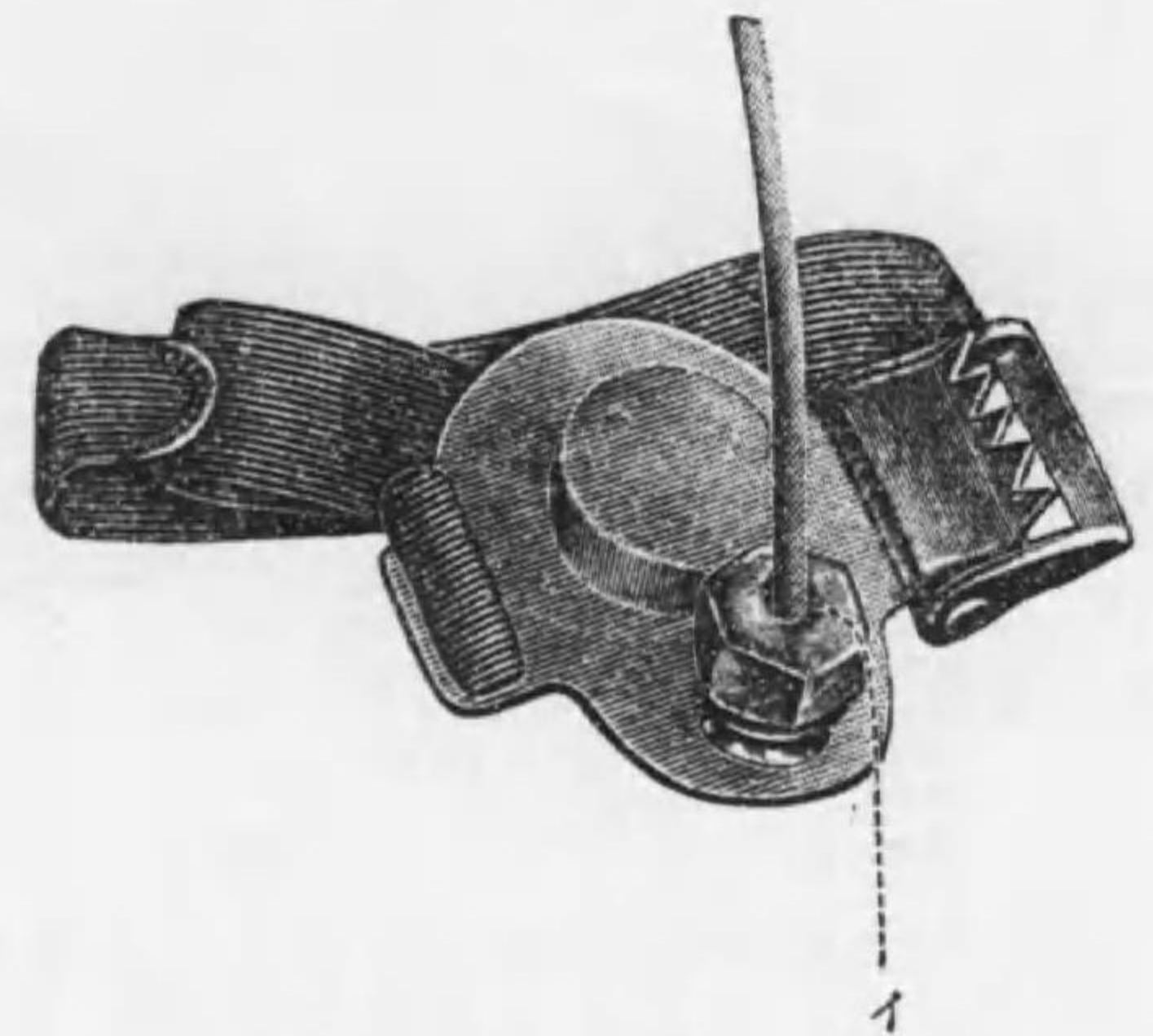
中てし斷切化酸が線導 (イ) 所るたりなとみの糸の

三四分位にあたる所でのみ切れるのである。若し導線が切斷してゐるか否やの疑ひある時は、線の表皮を剥いて精査し、切斷してゐたならば直ぐ修繕せねばならぬ。尙前述の如く高熱ある重症難病者に使用するとき、酸化作用の昂まる結果、導子の雌捻の上に於て

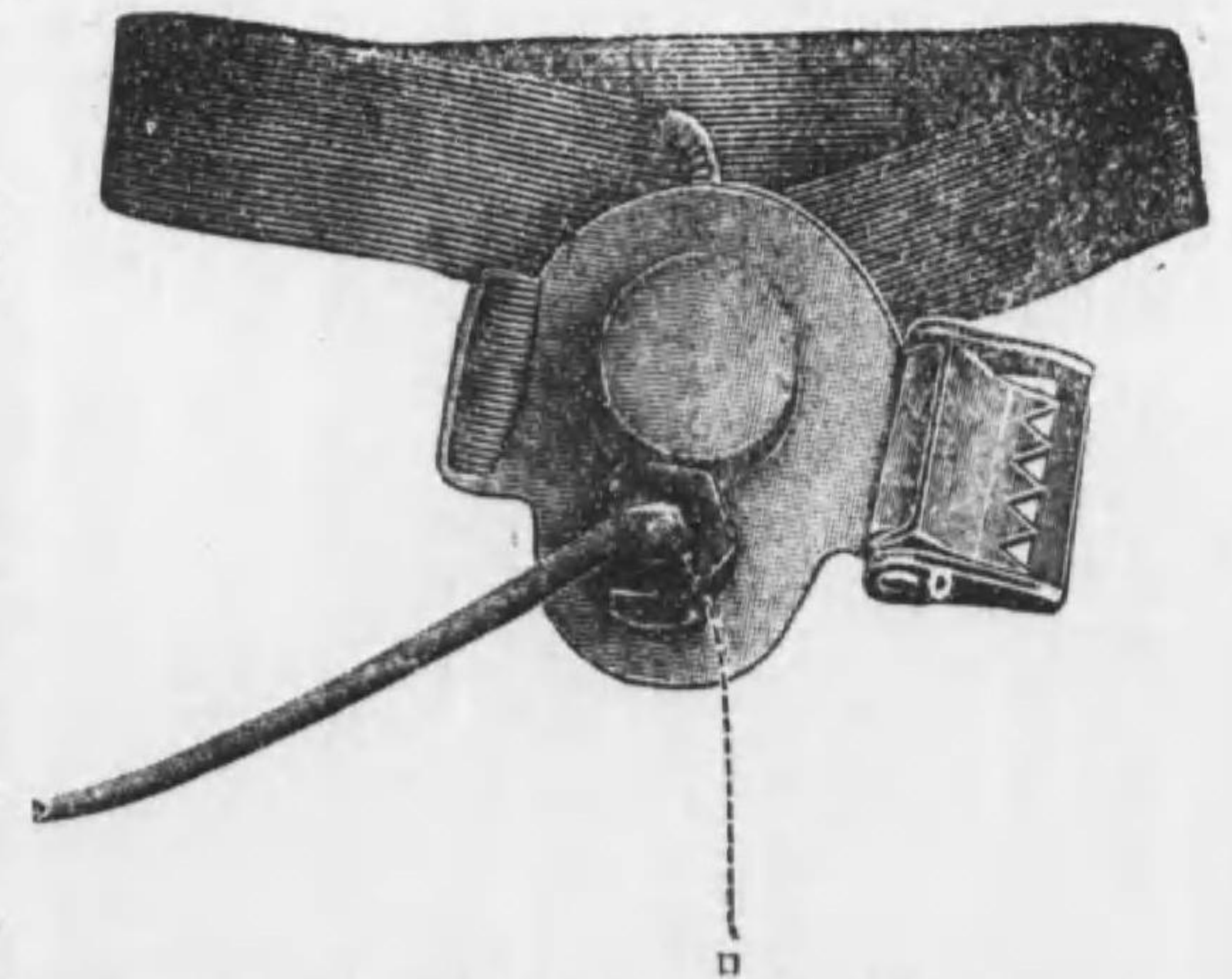
導線は九十條の細い銅線が集つて一線をなし、長さ一丈一尺餘を有してゐるが兩導子と連絡してゐる雌捻の直ぐ上で(第二十七圖イ部)前後に屈曲し、又酸化作用の爲に切れることが可なり烈しい。殊に高熱の病人に使用した時の如きは三日間位で切斷した實例も屢々

あるから、導線の切斷すると云ふことは單にその曲折に依るものとのみ判じてはならぬ。その大なる原因は、高き病熱の爲に、酸化されて切斷するのであることは、第二十八圖に示した銅線の截り口の焼き切れたやうに、黒くなつて居るのを見てもわかる。尙線返して云ふがその切斷する箇所は雌捻の直ぐ上(第二十七圖イ部)即ち雌捻を捻じ離し、線の結び目を解いて見れば、先端より約二寸

圖 七 十 二 第



す示を状るな全完の線導の上捻雌(イ) (るす立直ばせば伸引)

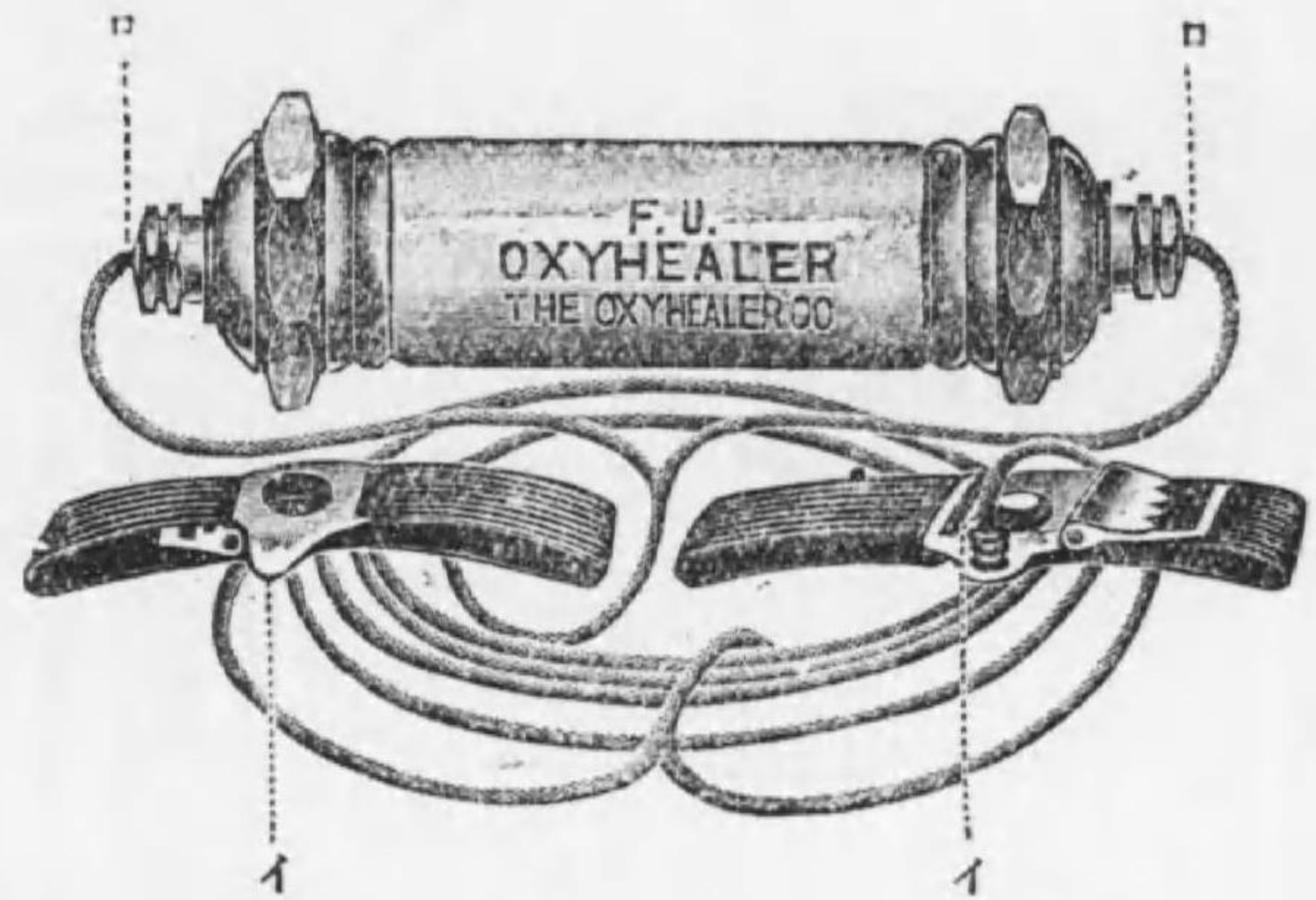


す示を状たれ切の線導の上捻雌(ロ) (る下れ垂もてしば伸引)

なるから(第二十六圖參照)さうならぬ内に注意して掃除せねばならぬ。兎に角發熱の高い病人、浮腫のある病人は勿論、概して難病、重症に使用した時には、汚物が多いのを常とするもの故、この場合には殊に注意して必ずその使用の都度掃除をすることが肝要である

屢々導線が切斷するばかりでなく、前頁に云つた如く雄捻と雌捻との間に汚穢物が澤山に出で、兩者の固著することあり、その甚だしきは全線が酸化腐蝕して、使用に堪へなくなるから、初めて本器を使用する人は、是等の點に特に深き注意を拂はれたい。

圖九十二第
圖全 - ラ - へ - シ - キ - オ



七 オキシヘーラー修繕法

兩導子に接する部分に於て導線の切斷せる場合(第二十九圖イの部)は其處を缺で截り取るか、若し切斷の不明の場合は分解器(第三十圖イの部)を以て雌捻を左へ(外へ)捻ぢ外し導線の結び目を解き、その線だけを引出して檢すれば、容易に切斷の有無を發見することが出来る。恰度二十八圖イの部のやうに

圖十三第
圖器解分



黒く焼き切れてゐる。若し此様に導線の切斷した箇所を發見した場合にはその全部を截除し(第三十一圖第一)然る後その切斷した截先より外包のまゝ、約一寸三分上に結び目を

作り(第三十一圖第二)結び目は成べく引締めて堅くし、結び目下の外包は缺で、結び目の根元まで奇麗に缺みとる(第三十一圖第三)その露出した銅線一寸三分は、これを圓錐形に指先で堅く巻きくめる(第三十一圖第四)然る後、その巻きくめるものを雌捻の中に引き入れ(第三十一圖第五)、それを導子の雄雌の上に當て指先で二三回捻ぢつた後、戻らぬやうに、前の分解器を以て更に二三回右へ(内へ)捻廻して締るのである。(第三十一圖第六)

原器に接する部分に於て導線の切斷せる場合(第二十九圖ロの部)熱心に使用する時は三四箇月目位に、原器と導線との接觸點を檢へて見る必要がある。然し此方は導子との接觸點と違ひ、餘り酸化せぬ故、度々切斷されることはない。悪い水に浸けた時などは雄捻の頭(雌捻と接觸する所)を磨く位のことである。若し切斷されてゐたときは分解器(第三十圖ロの部)を以て、原

圖 二 十 三 第

(部 の 器 原) 圖 繕 修 線 導

(四第)

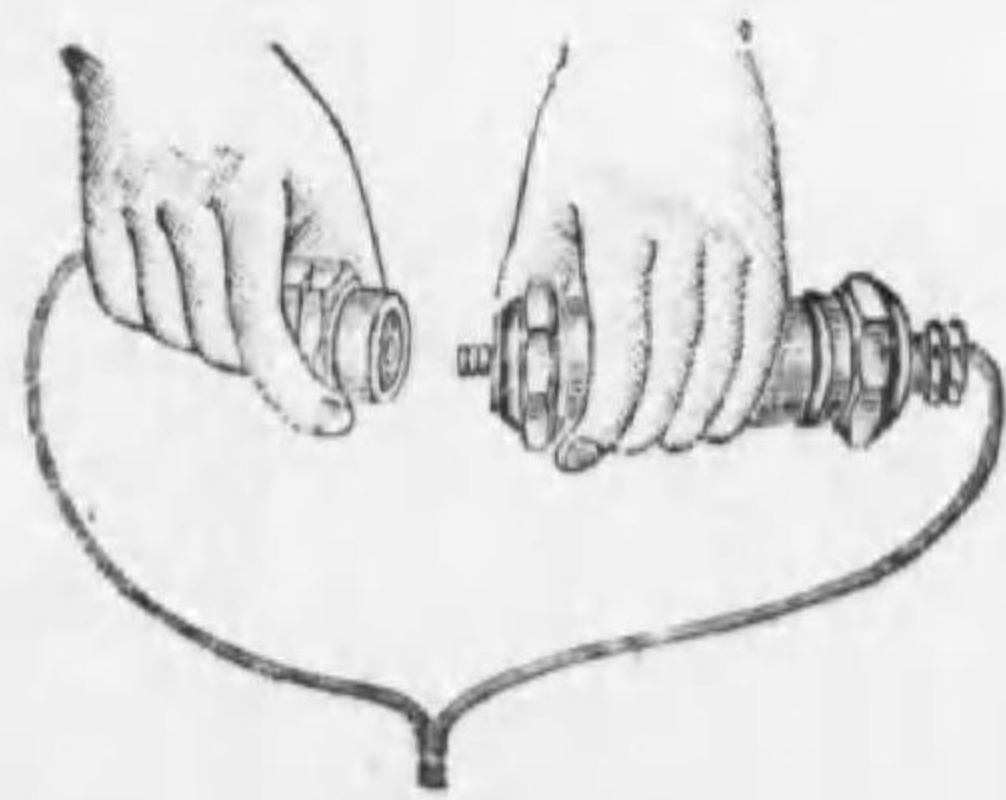
るめ丸に形錐圓を部出露



導線の切断せる部を截除し (第一)

(五第)

るれ入き引く強に中の捻雄



導線約一寸四五分の上を結ぶ (第二)

(六第)

む込め箱に捻雄て以を器解分



その結びたる下の銅線を露出せしむ (第三)

圖 一 十 三 第

(部 の 子 導) 圖 繕 修 線 導

(四第)

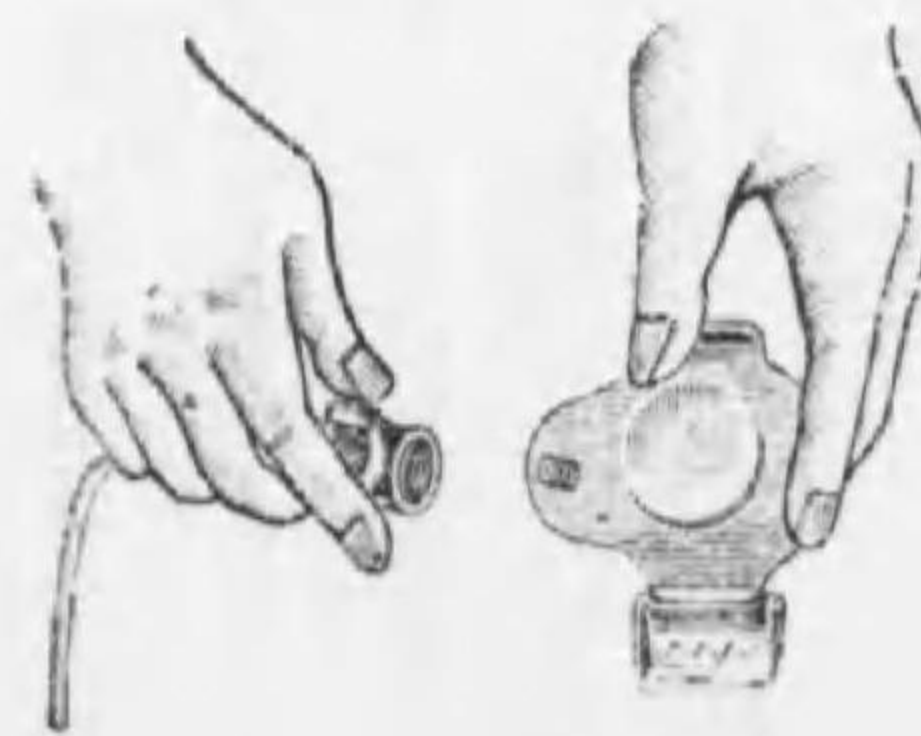
るめ丸に形錐圓を部出露



導線の切断せる部を截除し (第一)

(五第)

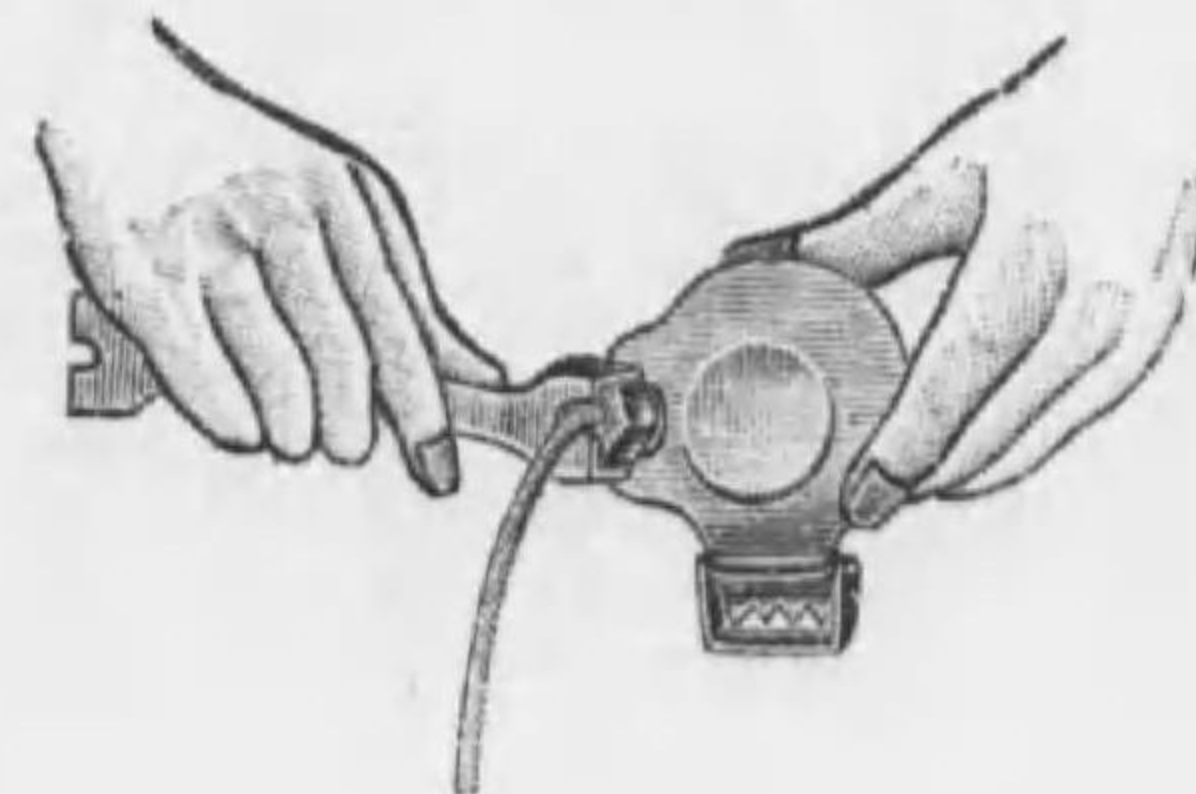
るれ入き引く強に中の捻雄



導線約一寸二三分の上を結ぶ (第二)

(六第)

む込め箱に捻雄て以を器解分



その結びたる下の銅線を露出せしむ (第三)

圖 三 十 三 第
器 解 分 と ー ラ ー ヘ シ キ オ 用 家 醫



手他を頸足頸に著ければ、比較的速效を擧げることができ、又一時に二人にて使用するに便宜があるとして、専ら醫家諸彦から希望されるのでこの名ある所以である。併し醫家用は右のやうな特徴を有する代り、使用に餘程の注意を拂はないと、往々強い反動を招來するの恐れあるから、四箇の導子を悉く使用し、原器を大力として、患部に熱濕布を併用する場合は、約四十分小兒は年齢の割合に従つて時間を短かくし、大人にても衰弱の程度に依つては使用時間を短縮する。又、中力以下を以て導子二箇だけを使用するときは、五六時間の連用は差支ない。その他の注意は家庭用オキシヘーラーの使用法に従はれたるのであるが、醫家用を使用せらるゝ人

手他を頸足頸に著ければ、比較的速效を擧げることができ、又一時に二人にて使用するに便宜があるとして、専ら醫家諸彦から希望されるのでこの名ある所以である。併し醫家用は右のやうな特徴を有する代り、使用に餘程の注意を拂はないと、往々強い反動を招來するの恐れあるから、四箇の導子を悉く使用し、原器を大力として、患部に熱濕布を併用する場合は、約四十分小兒は年齢の割合に従つて時間を短かくし、大人にても衰弱の程度に依つては使用時間を短縮する。又、中力以下を以て導子二箇だけを使用するときは、五六時間の連用は差支ない。その他の注意は家庭用オキシヘーラーの使用法に従はれたるのであるが、醫家用を使用せらるゝ人

器の雌捻を外し導線を引き出し結び目の上より切断し、更に結び目を作ることを前法と同じくするのであるが、この場合原器に於ける雌捻の凹所は、導子の方より大きいから、銅線の露出部は一寸四五分を要する。(第三十二圖)導線は、中間に於て切断する場合は絶えて無いから、原器及び導子との接觸點(第二十九圖イロ部)に於ける導線の切断と、その導子の雄捻に附著する酸化物(第二十五圖參照)とに常に注意を怠らざれば、オキシヘーラーは、必ず何時も完全の作用を失はないものである。

醫家用オキシヘーラー

醫家用オキシヘーラーは、第三十三圖に示す如き形状のもので、その原器は重量約五百四十匁、高さ六寸三分直徑二寸三分を有し、頂上の兩端から、各一箇の導子を有する四本の導線が出てゐて、一時に二人で使用し得るやうになつてゐる。内容は家庭用オキシヘーラーと同様であるが、その容量に於て約二倍半を有してゐるから、従つてこれを一人で使用するれば家庭用の略々二倍餘の效力となり、二人して分用しても、尙家庭用よりは餘程強力な作用があるのである。故に重き疾病の場合などには、四箇の導子の中二箇を患部に

は、先づ家庭用にて十分の實驗と、研究とを経たる後ならば一層便宜で、且つ有利であらうと思ふ。

動物用オキシヘーラー

第三十四圖
動物用オキシヘーラー
馬に使用したる圖



動物用オキシヘーラーは、牧畜家、家畜飼養者の必需品として愛用指かざるところである。その効力は、家庭用オキシヘーラーと同様であるが、唯、家庭用に比して形態頗る大きく全體の重量は、約一貫匁あつて家庭用の約五倍位に相當するから、その感作力の強大なることは勿論である。故に家庭用オキシヘーラーを使用して、最

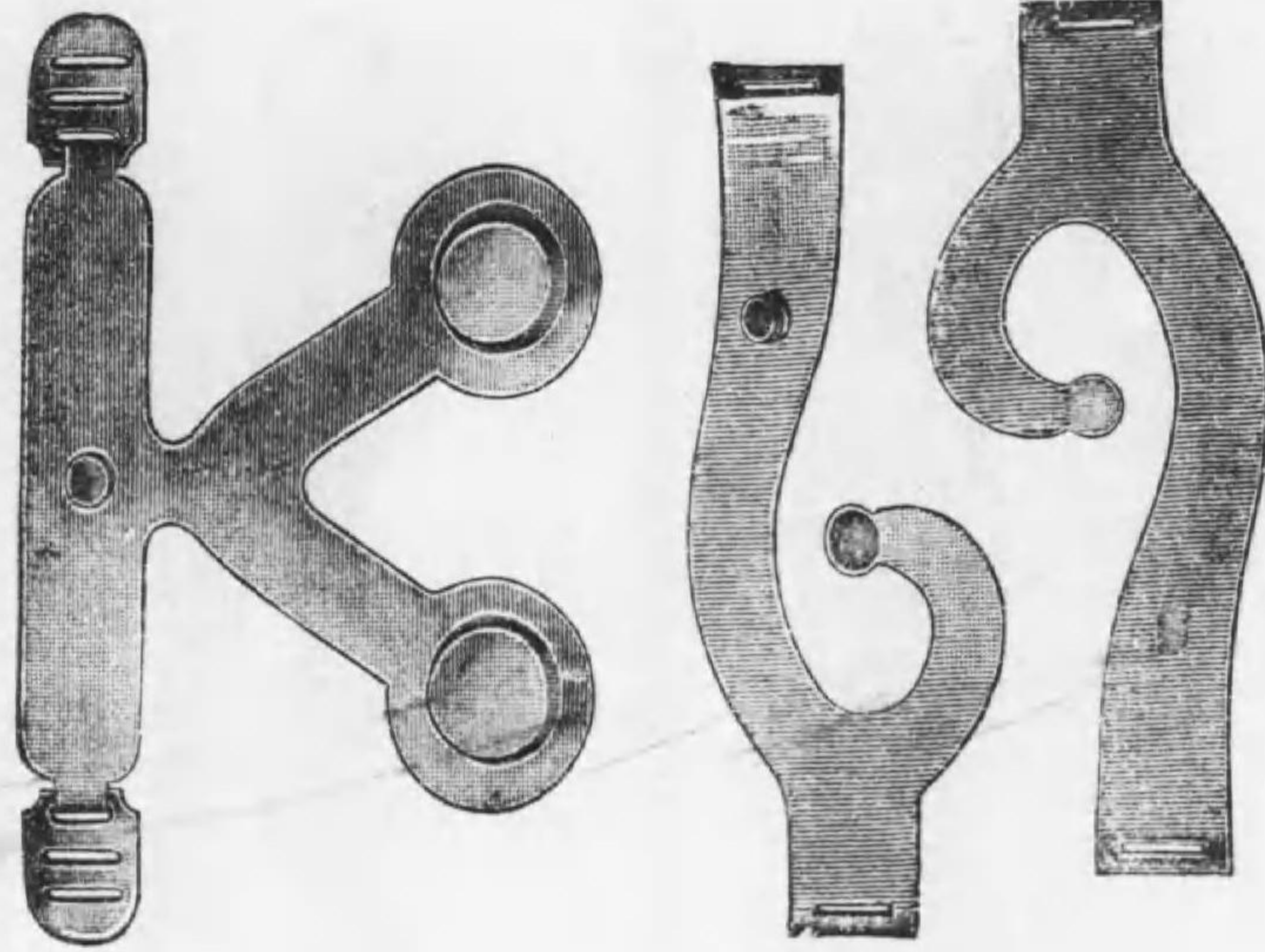
初何等の感覺もないと云ふ人も、動物用を試用すれば、多くは直に何等かの感覺を認むるのみならず、婦人小兒の如き抵抗の弱きものにあつては、著しく心臓の鼓動を感じて、身體に溫感を覺え、一層烈しきに至りては、使用短時間にして、下痢を催すことなどもあつて、その反應は家庭用醫家用に比して顯著である。元來、動物用は、専ら、牛馬用として適用するもので、他の羊豚犬猫鳥獸等の如き小動物には、醫家用、家庭用が相當するであらう。而してその使用法、修繕法等は毫も家庭用と異らないから、凡て、オキシヘーラー使用書に準據し、時間及び力などを調節して、適宜應變使用せられたい。

オキシヘーラー局所療法用導子

オキシヘーラーの普通の導子は、全身療法を主として作つたものであるから、局所療法を行ふ場合には、十分適切でない憂ひがあるので、各局所療法用の導子として、別に次の如き種類のものを案出した。是等各種の局所導子は、普通導子と同じく、悉く、金屬製で構造堅牢のものであること勿論である。その應用法は、普通導子の一つを除いて、是等の導子をそれに著け換へ、所要の局所に接觸すれば宜しいのである。

(四)

(三)

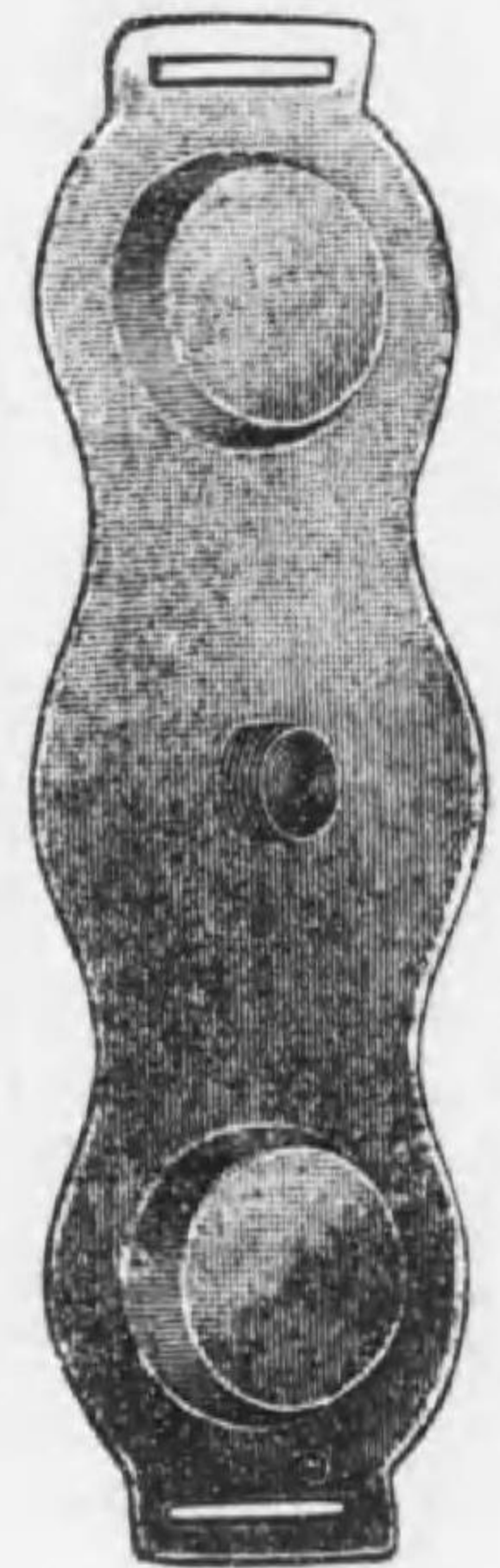
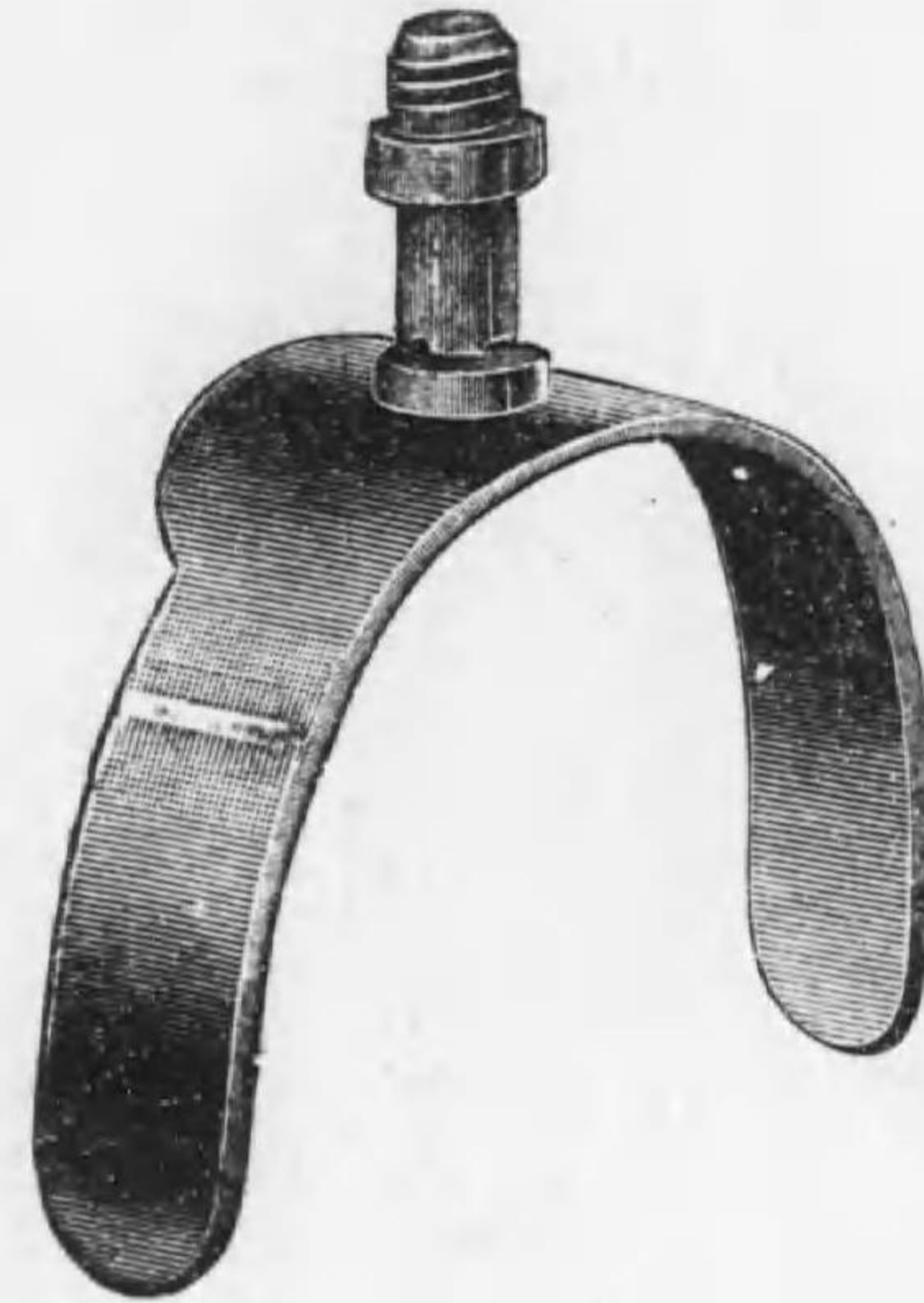


三、**耳科用導子** 耳加答兒、中耳炎、耳痛、難聽等各種耳病に使用するに適す。この場合、綿縛はよく絞りにて耳の中に入れる。
 正價 左右一組金 參圓
 送料 金拾八錢

四、**鼻科用導子** 急性慢性各種の鼻加答兒に使用すれば、粘膜の炎症を減じ肥厚を治するに適す。その使用法は一の字を額に當て、二本の脚は鼻梁を跨ぎて兩側に接觸するやう適宜に屈曲せしめ、その上より熱濕布を行ふ。
 正價 金 貳圓
 送料 金拾八錢

(二)

(一)



第三十五圖

一、**應用導子** 各部の局所疾患に應用され、特に吸酸化の兩作用を高からしむる場合に適す。
 正價 金 壹圓
 送料 金拾八錢

二、**口腔用導子** 齒齦の膿瘍、齒根膜炎、齒痛若くは弛緩齒の疼痛、その他口腔に於ける各種の疾患に使用するに適す。
 正價 金壹圓五拾錢
 送料 金拾八錢



八、子宮用導子 甲は、月經不順、月

經痛、白帶下、卵巢炎等一般子宮病に用ゆ。
乙は、外陰部及腔に屬する疾病に適す。

正價 甲乙各金貳圓五拾錢

送料 金拾八錢

注意 この導子使用に際しては、その尖端にワセリン又はグリセリンの如きものを塗布し皮膚との接觸を滑かにして使用せられたい。

七、脊髓用導子 脊髓痲痺及脊髓に關

する各種の疾病に使用するに適す
正價 金參圓五拾錢

送料 金拾八錢



五、眼科用導子 眼及眼險の疼痛炎症

等に使用するに適す。

正價 金壹圓五拾錢

送料 金拾八錢

六、腰部用導子 主として腰部神經痲

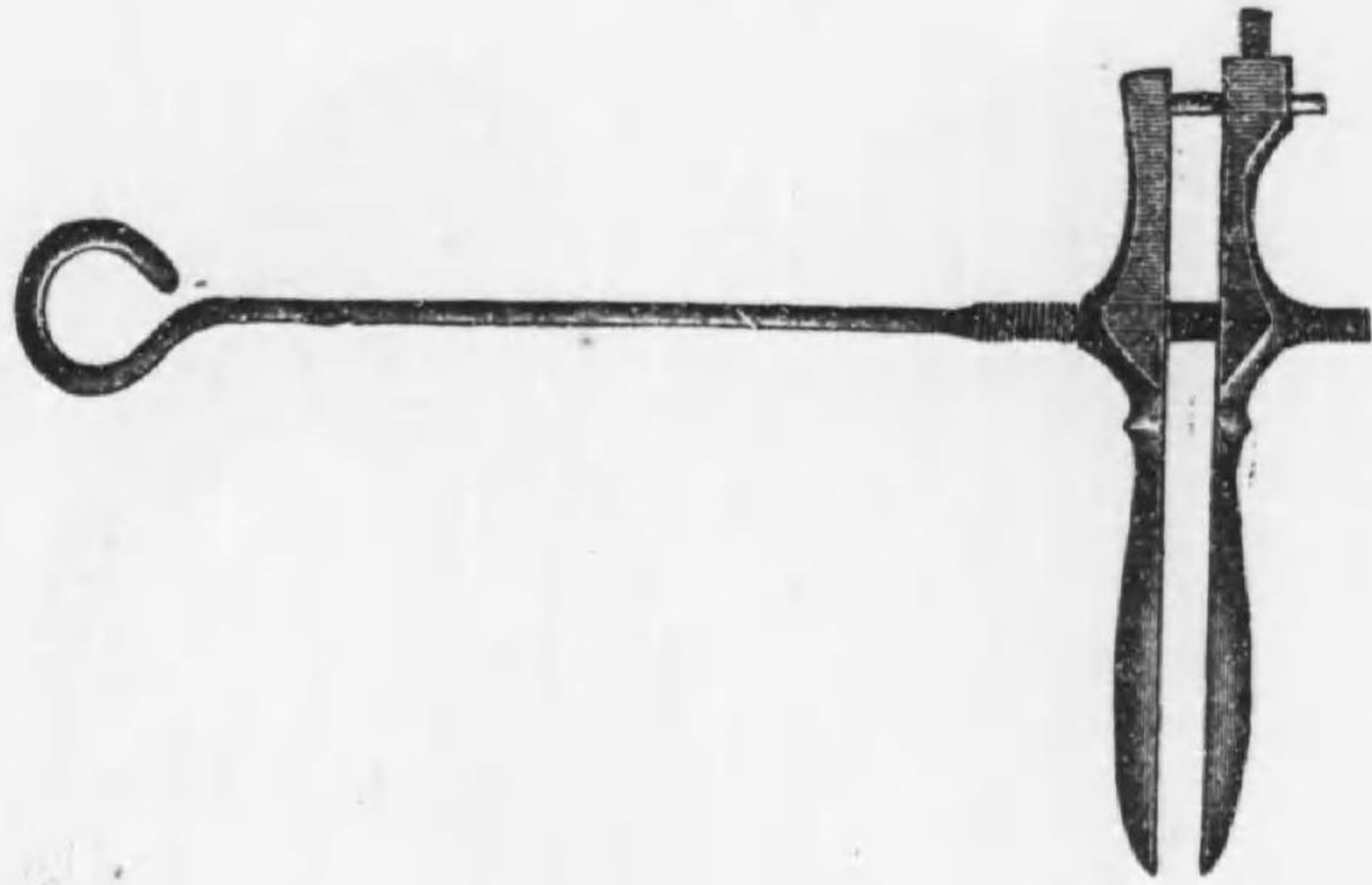
痺、腎臟病等に使用するに適す。

正價 (大) 金貳圓五拾錢

同 (小) 金 貳 圓

送料 金拾八錢

(一十)



十一、特別直腸用導子 便秘、痔疾、裂

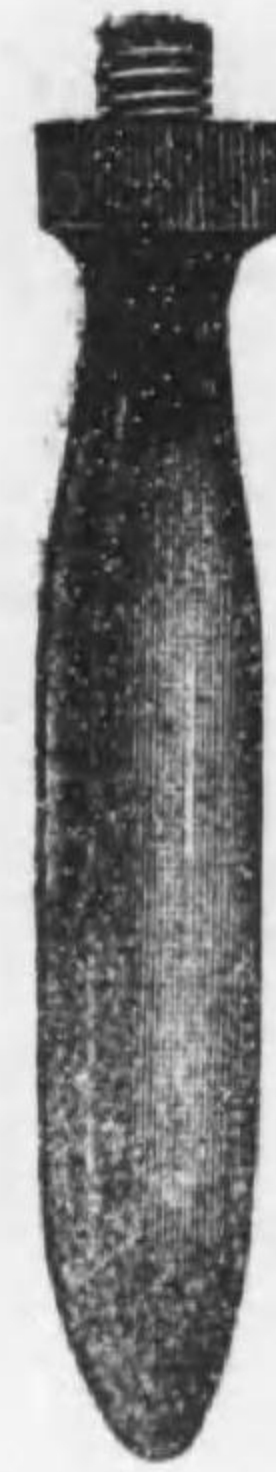
創、化膿症、攝護腺炎等各種の頑強なる直腸疾患に使用するに適す

正價 金參圓五拾錢

送料 金拾八錢

注意 前同斷

(十)



十、直腸用導子 便秘、痔疾、裂創化膿等に使用するに適す。

正價 金壹圓五拾錢

送料 金拾八錢

注意 前同斷

(九)



九、尿道用導子 尿道加答兒、淋病攝護腺炎、膀胱諸症等に使用し又婦人尿道にも適用す。

正價 金貳圓五拾錢

送料 金拾八錢

注意 前同斷

(四十) 圖 面 表

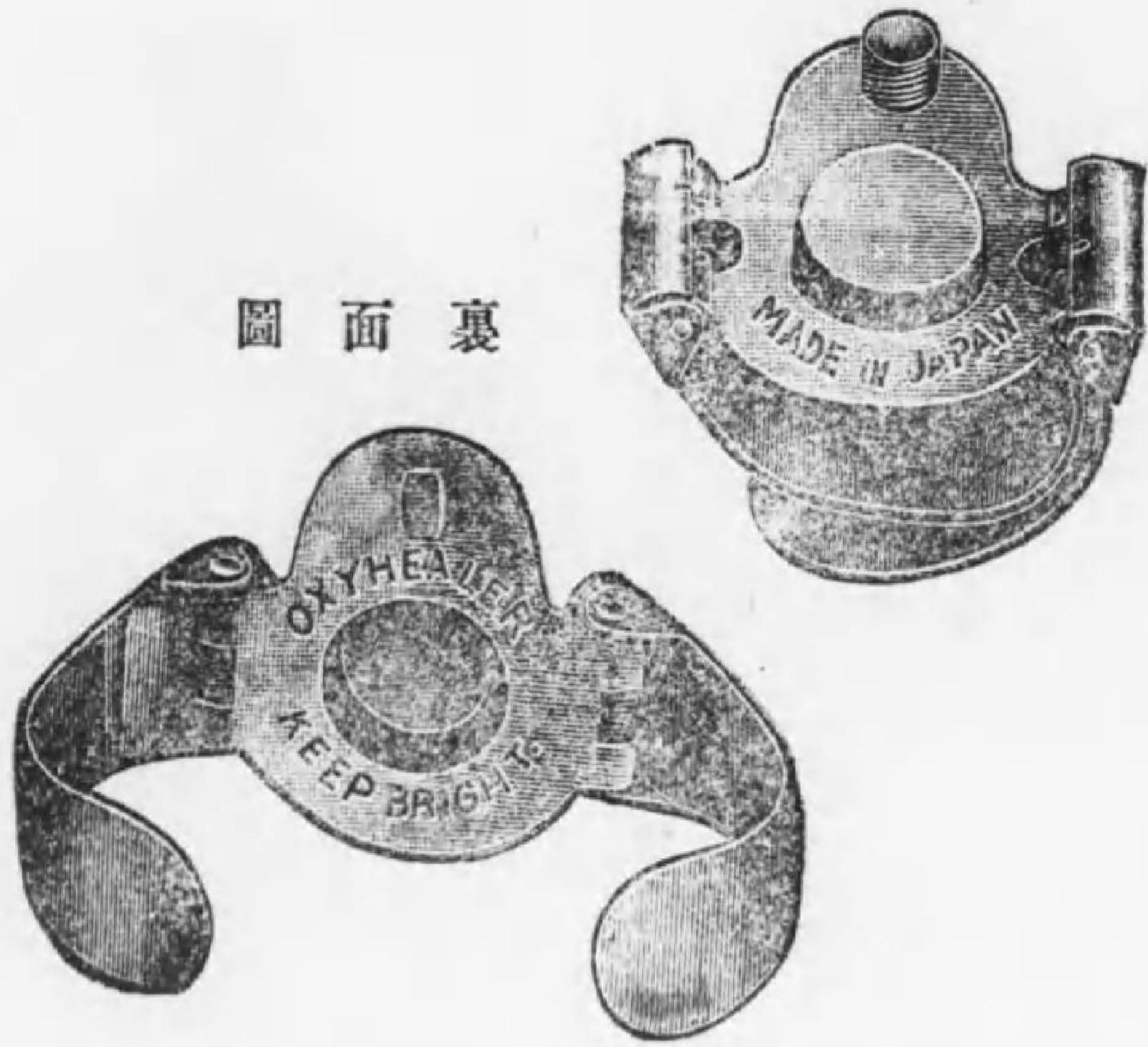


圖 面 裏

十四、新案導子

専ら全身療法に使用するもので、護謨紐を以て纏縛する煩ひなく、随つて特に執務讀書等晝間使用の場合に便利で夜間就寝中の使用には、却て不便である。

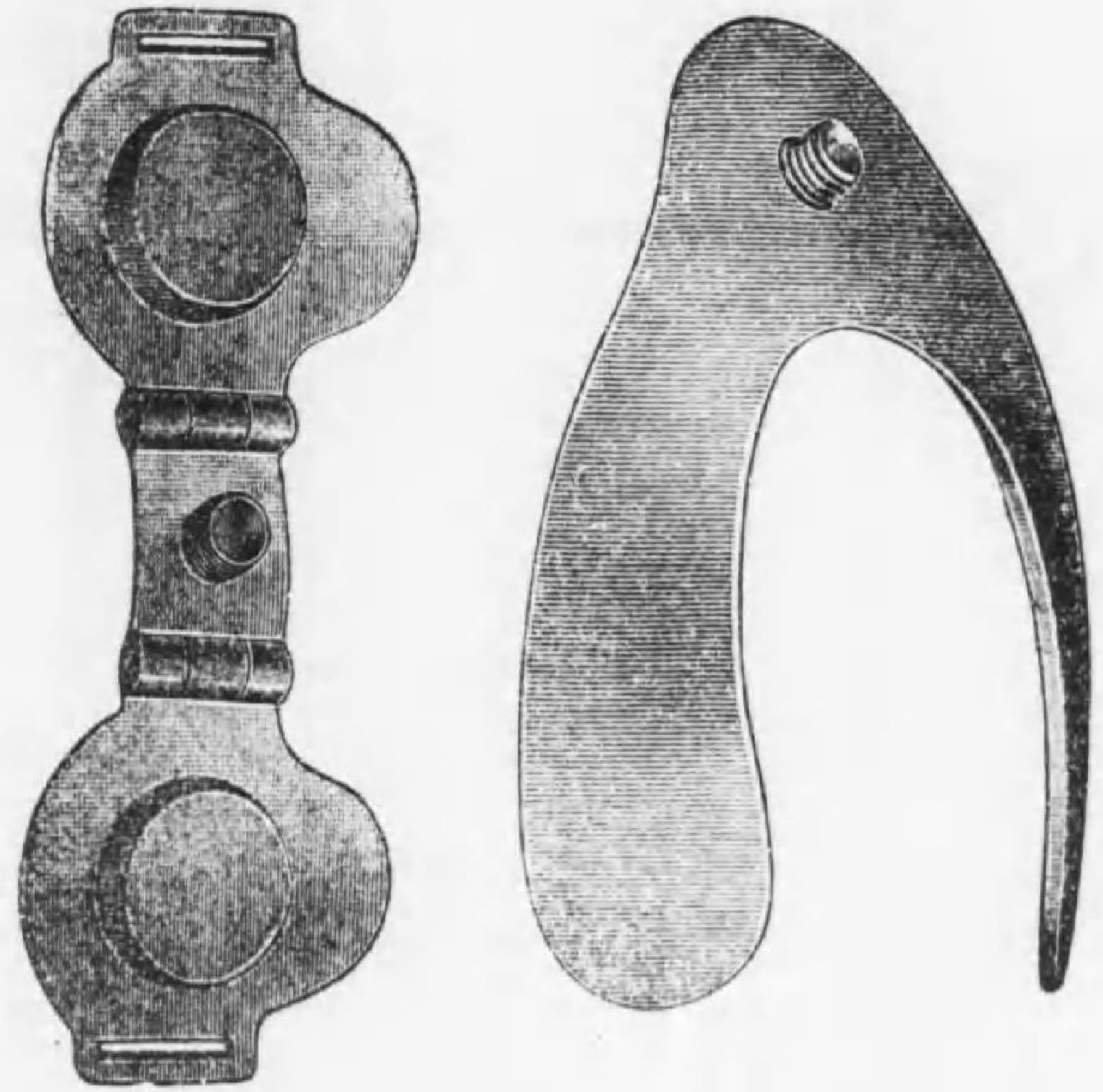
正價 二箇一組 金 參 圓

送料 金拾八錢

上圖は同一のものを表面より見たると、裏面より見たるとの圖である。

(三十)

(二十)



十二、牽丸用導子

精系靜脈腫、陰囊水腫、牽丸炎に使用するに適す

正價 金貳圓五拾錢

送料 金拾八錢

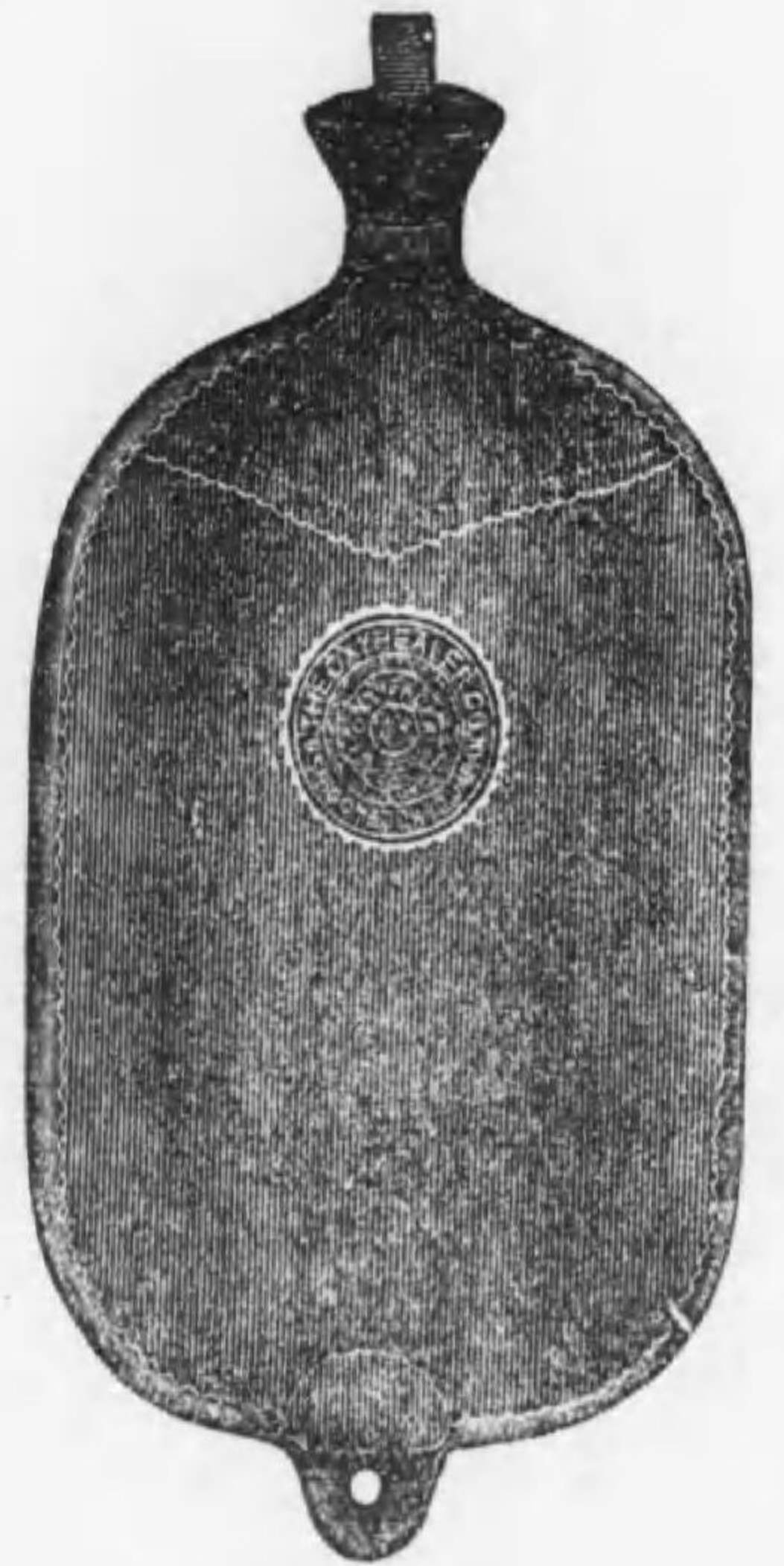
十三、咽喉用導子

氣管支加答兒、喉頭炎、百日咳、喘息等の使用に適し、蝶番を以て屈折自在にしてあるから、關節炎に使用することも便利である。

正價 金 貳 圓

送料 金拾八錢

(五十)



十六、金屬製湯タンポ 厚さ一寸

二分、横五寸七分、縦三寸の真鍮ニツケル鍍金製にして、極めて輕便且つ耐久性のものである。

正價 金 壹 圓

送料 金拾八錢

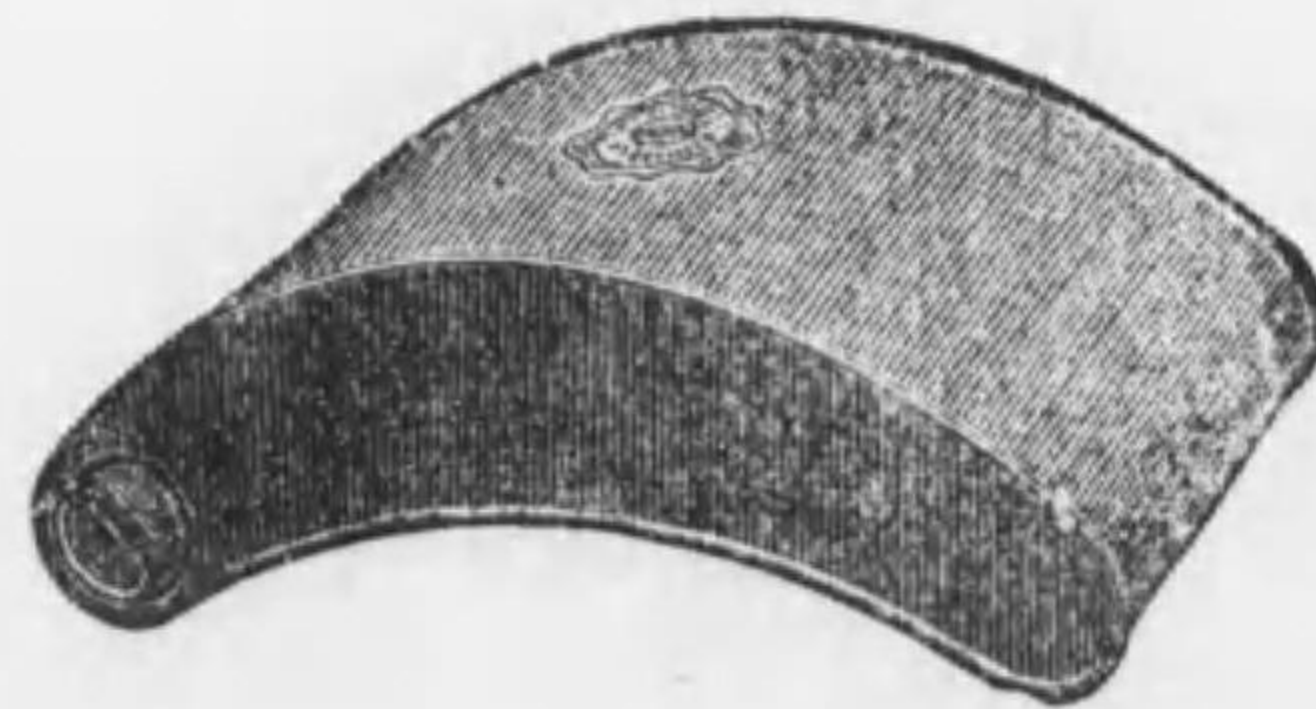
十五、護謨湯タンポ

横六寸長、八寸七分、本會の特製品にして、熱濕布の代用に便利である。

正價 金 貳 圓

送料 金拾八錢

(六十)



十七、原器冷却袋 護謨製巾

著型にして船車旅行の際、碎氷を入れて原器を冷却するに便なり。

正價 金壹圓五拾錢

送料 金拾八錢

オキシヘーラー及び附屬品正價表

- 導線 (一本) 金貳圓
- 普通導子 (二組) 金貳圓
- 護謨紐 (二組) 金四拾錢

送料

使用書は送料金拾參錢、其他附屬品は、一箇書留小包料金拾八錢。

臺・樺・朝・金四拾五錢

- 分解器 (一箇) 金五拾錢
- 使用書 (二冊) 金壹圓

使用書には邦文、華文、英文の三種あり。一器に一冊を添附す。

其他附屬品は、一箇書留小包料金拾八錢。

臺・樺・朝・金四拾五錢

(七十)



- 家庭用横型オキシヘーラー (一箇) 正價 金參拾五圓也 使用書付、指定
- 家庭用堅型オキシヘーラー (一箇) 正價 金四拾圓也 により日、英、
- 醫家用オキシヘーラー (一箇) 正價 金五拾圓也 華何れにても差
- 動物用オキシヘーラー (一箇) 正價 金七拾五圓也 支なし。

◇御注文の節は、東京市牛込區神樂町一丁目一番地
 オキシヘーラー獎勵會主前島震太郎宛に致されたし。
 ◇オキシヘーラーの送料は、購買者の負擔とする。故に該器代價と共に左表により送料も加算して送金せられたい。

家庭用横型書留小包料

- 内地 金參拾六錢也
- 臺灣・樺太・朝鮮・日本統治南洋諸島金六拾五錢也
- 外國 中華民國金九拾錢也 米國及植民地金壹圓四拾四錢也
- 加奈太金貳圓八拾錢也
- 其他諸外國十一封度(一貫三百二十匁)又は五匁(一貫三百三十三匁)小包料金 金五拾四錢也
- 臺灣・樺太・朝鮮・日本統治南洋諸島金八拾五錢也
- 外國 中華民國金九拾錢 米國金貳圓拾六錢 英國金壹圓五拾錢也
- 加奈太金貳圓八拾錢也
- 佛國金壹圓參拾八錢也 西班牙金壹圓六拾八錢也

家庭用堅型書留小包料

醫家用書留小包料

- 内地 金七拾貳錢也
- 臺灣・樺太・朝鮮・日本統治南洋諸島金九拾五錢也
- 外國 中華民國金壹圓貳拾錢也 米國及植民地金貳圓六拾四錢也
- 加奈太金四圓四拾錢也
- 其他諸外國重量十一封度(一貫三百二十匁)又は五匁(一貫三百三十三匁)小包料金

動物用送料

重量 壹貫匁餘 鐵道小荷物、汽船積賃金實費

オキシヘーラー使用書終

内科、外科他 一般

治療時間 自午前九時 至午後四時

東京市牛込區神樂町一丁目一番地

オキシヘーラー獎勵會附屬

保全堂療院

電話牛込(四四)三三〇五

大正三三年八月九日印刷
 大正三四年八月九日印刷
 大正三五年八月九日印刷
 大正三六年八月九日印刷
 大正三七年八月九日印刷
 大正三八年八月九日印刷
 大正三九年八月九日印刷
 大正四〇年八月九日印刷
 大正四一年八月九日印刷
 大正四二年八月九日印刷
 大正四三年八月九日印刷
 大正四四年八月九日印刷
 大正四五年八月九日印刷
 大正四六年八月九日印刷
 大正四七年八月九日印刷
 大正四八年八月九日印刷
 大正四九年八月九日印刷
 大正五〇年八月九日印刷

【定價金壹圓也】

大正八年七月廿五日
 大正九年七月廿五日
 大正十年七月廿五日
 大正十一年七月廿五日
 大正十二年七月廿五日
 大正十三年七月廿五日
 大正十四年七月廿五日
 大正十五年七月廿五日
 大正十六年七月廿五日
 大正十七年七月廿五日
 大正十八年七月廿五日
 大正十九年七月廿五日
 大正二十年七月廿五日
 大正二十一年七月廿五日
 大正二十二年七月廿五日
 大正二十三年七月廿五日
 大正二十四年七月廿五日
 大正二十五年七月廿五日
 大正二十六年七月廿五日
 大正二十七年七月廿五日
 大正二十八年七月廿五日
 大正二十九年七月廿五日
 大正三十年七月廿五日

不許複製

著作兼發行者

東京市牛込區神樂町一丁目一番地
 前島震太郎

印刷者

東京市京橋區日吉町十番地
 渡邊爲藏

印刷所

東京市京橋區日吉町十番地
 民友社

發行所

東京市牛込區神樂町一丁目一番地
 オキシヘーラー獎勵會

電話牛込(四四)三三〇五
 振替口座 東京二七七一二

290
254

終